

千葉県における郷土景観の選定とその観光的活用

山 村 順 次

1 はじめに

地域のユニークな景観を観光に活かすことは、観光地域づくりにとってもっとも大切なことである。よりよい観光地域を形成するためには、他の地域との差別化を明確に打ち出せるような個性的な観光資源・観光対象を掘り起して保全し、その価値を観光客に説明する観光ガイドの存在が欠かせない。

これまで、わが国の多くの観光地では、地域の景観を単に誘客のための宣伝材料に使ってきた経緯があり、地域住民がその多面的な価値を観光客に伝えることを怠ってきた。そこで、個々の観光業者がそれぞれに看板や建築物の形や色彩を無秩序に取り込み、コンクリートの電柱と縦横に張り巡らされた電線が落ち着きのない画一的な観光地の町並み景観を作り上げてきた。地域の景観を保全するためには、地域を構成する人々の景観に対する共通理解があり、さらに景観保全を前提とした景観づくりへの積極的な参加がなければならないのである。

観光地の景観保全については、30年、40年も前から指摘されてきたが、文化庁の「重要伝統的建造物群保存地区」（重伝建）のような一部の歴史的町並みなどにおいては整備されてきたものの、一般的な観光地の町並み保全は手付かずの状態であった。しかし、景観保全が叫ばれ始めて以来数十年を経て、ようやく新しい法整備のもとに景観保全が具体的に展開されようとしている。

国土交通省が立案し、2004（平成16）年6月18日に公布された「景観法」は、こうした乱雑な景観が蔓延することへの歯止めとなることを目的としている。国土交通省は、前年の2003年7月に「美しい国づくり政策大綱」を策定し、地方自治体が取り組んできた景観整備を支援することにしたが、同時に進められていた「観光立国行動計画」をも踏まえて、翌年の「景観法」制定へと展開したのである。

「景観法」第1条には、「この法律は、日本の都市、農山漁村等における良好な景観の形成を促進するため、景観計画の策定その他の施策を総合的に講ずることにより、美しく風格のある国土の形成、潤いのある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力のある地域社会の実現を図り、もって国民生活の向上並びに国民経済及び地域社会の健全な発展に寄与することを目的とする」とあり、以下の特徴が指摘されている。

- ①基本理念等基本法の性格と風景計画、景観整備機構等具体的な規制や支援措置が定められていること
- ②都市部だけでなく農村部、自然公園等も対象としていること
- ③地域の個性が反映できるよう、条例で規制内容を柔軟に決めることができること
- ④景観計画地域の変更命令等いざというときに強制力を発揮できる措置を付与していること

こうした国や地方の行政当局による景観保全の動きに応じて、観光地の景観保全と農山漁村における特色のある景観の観光的活用方策が積極的に検討され始めたのである。また、ここで特筆されることは、文化庁の文化財保護行政の一環として進められていた文化的景観について、文化庁との連携のもとに景観法における景観計画区域または景観地区内から重要文化的景観を選定するとしていることである。ここに、文化的景観が全国的に取り上げられることになった。

以上の景観保全とその観光的活用に関わって、千葉県の実態把握とそのあり方を明らかにすることを本研究の目的とした。これまでの文化的景観は当然のこととして自然景観を除いているので、本研究では自然景観を加えたものとして、「郷土景観」という視点を取り入れた。人々が小中学生時代に育った思い出深い「ふるさとの景観」「郷土の原風景」の大切さを認識する意味を込めてのことでもある。

2 研究の意義と方法

本研究の目的を達成するために、まず文化的景観の意義と全国的動向を明らかにすることにし、千葉県の郷土景観選定の参考とした。本研究テーマの選定理由は、次のようである。

千葉県は首都圏の東部を占め、東京を中心とした都市地域から多数の観光客を集めているが、テーマパークや道の駅などの施設を巡る日帰り観光が主流を占めている。一方、県内各地には地域の宝である貴重な農山漁村景観や自然的・歴史的・文化的景観が数多く残されているが、その観光的活用がなされないままに消滅の危機の瀕しているのである。

千葉県教育委員会文化財課では、本研究計画段階の2008年度初頭に「ちば遺産100選」と「ちば文化的景観」の候補地を抽出し、県民投票を行っていた。前者は伝統文化・文化遺産・自然遺産であり、後者は歴史的・都市的景観がかなりあり、農山漁村景観の候補の数は比較的少なかった。そこで、本研究では四季折々に変化するローカルな地域の生業を現している農山漁村景観をメインに、千葉県の自然・歴史・文化・産業的価値のある景観を郷土景観として選定し、その景観を活かした持続可能な観光発展策を考察することにした。これらの郷土景観は、千葉県各地や首都圏からの観光客をはじめ、外国人にとっても魅力的であり、千葉県における滞在型観光地域の形成に大きな意義を有するものと考えられる。

本研究の方法として、室内での文献資料収集と野外での観察調査、さらに代表的な重要文化的景観地域での現地調査を実施するとともに、千葉県全市町村関係部局への郷土景観候補地についてのアンケートや首都圏住民の郷土景観訪問に関するアンケート調査を行ない、その分析をするとともにサンプル地域を取り上げて、今後の観光活用策を提示することにした。

郷土景観選定に当たっての資料収集は、千葉県発行の関係図書や行政当局のホームページでの検索を行い、千葉県全56市町村(36市17町3村)へのアンケート調査も実施した。次いで、千葉県文化財課の選定した「ちば文化的景観60」の大半を取り入れるとともに、さらに市町村推薦の郷土景観、各種文献や研究者の視点を入れて新たに郷土景観100を選定した。郷土景観100の選定後は、千葉県民を中心に、東京都民、神奈川・埼玉県民へのアンケート調査を実施してその分析をした。とくに、

郷土景観の訪問度についてまとめるとともに、その評価をした。

さらに、千葉県郷土景観 100 を千葉県北部地域と千葉県南部地域の両地域に分け、代表的郷土景観を取り上げて現地調査を行ない、その実態と観光的活用策を具体的に提示したが、本稿では南房総地域の勝浦・鴨川・南房総市などを取り上げ、南房総地域の郷土景観の観光的活用について具体的に記述することにした。

3 研究地域の概要

千葉県の北は利根川が流れていて茨城県と境され、西は江戸川が東京都と埼玉県に接している。さらに、その他は内湾の東京湾や太平洋の長い海岸線に面していて、県の境界は多様な水辺環境のもとに成立している。地形的には河川沿いの低地や九十九里平野などは水田地域とはなっているが、北総地域を中心にして広大な下総台地が展開していて畑作地域を形成しており、近年では新興住宅地の開発も見られる。この地域の畑作として早くから導入されたラッカセイは、八街を中心に栽培されており、秋の収穫期には豆ボッチの並ぶラッカセイの乾燥景観がユニークである。また、台地を侵食して生まれた谷津田景観が各地に残されているのもこの地域である。

海岸に面しては、東京湾岸は埋立地となっていて、工業用地や住宅地域と化しているが、市川から船橋にかけての三番瀬や習志野の谷津干潟、さらに木更津の小櫃川河口の盤洲などの貴重な湿地も残されている。一方、銚子の外川から刑部岬に続く屏風ヶ浦をはじめ、約 60 km におよぶ九十九里浜や南房総の外房・内房の岩石海岸など、変化に富んだ海岸景観が展開し、千葉県の自然景観を特色づけている。

気候的にも温暖な海洋性気候であり、特に南房総では冬の平均気温が北総に比べて高く、無霜地帯もあってキンセンカ・ストック・菜の花などの露地の花畑が広がり、観光資源となって多くの観光客を集めている。植生をみると、県南部はマテバシイ・タブなどの常緑広葉樹林に広く覆われ、初夏の頃には葉を入れ替えた樹林が黄緑色に変わって美しい景観を見ることができる。また、千葉県では広範囲にわたってマキの生垣が仕立てられており、寄棟瓦葺平屋の農家と良くマッチしていて、房総の景観美を醸成している。

このように、首都圏の一角を形成する位置にありながら、千葉県には地域的特色のある郷土景観が数多く見られるのであり、その保全と観光的活用が今後の観光振興にとって重要であることは論をまたない。

2006 年度の千葉県の観光客数の地域的傾向を見ると、東葛飾・東京湾岸等の都市化地域で約 3 分の 2 を占めてはいるが、印旛・香取、銚子・九十九里、南房総などもそれぞれの地域的特性を前面に出して、かなりの観光客を吸収していることが分かる(表 1)。

表1 千葉県観光客の地域的特性 (2006年)

単位：万人

地域	観光客数	%	日帰り客数	%	宿泊客数	% (外国人)
東葛飾	3,832	30	3,256	29	576	38 (10)
東京湾岸	3,626	28	3,354	30	272	18 (17)
印旛・香取	2,300	18	2,021	18	279	18 (147)
銚子・九十九里	1,503	12	1,380	12	124	8 (0)
南房総	1,536	12	1,256	11	280	18 (1)
計	12,797	100	11,267	100	1,531	100 (175)

(注) 千葉県観光課資料による。

しかし、観光形態別の特性を見ると、遊ぶ(楽しむ・リフレッシュ)が約半数を占めており、学ぶ(見る・体験)は36%を示しているものの、そのうち本来の学ぶから若干はずれた神社・仏閣巡りが26%を占めていて、いわゆるニューツーリズムとしての学び・体験の比率は低いと言わざるを得ない(表2)。ここに、本研究で取り上げている郷土景観を前面に出して、学びや触れ合いの観光を促進することが望まれるのであり、千葉県はそのための地域的特性を十二分に保持しているのである。

表2 千葉県観光客の観光形態別特性 (2006年)

大分類	中分類	小分類	観光客数
学ぶ(見る・体験)	自然	河川・海岸景観・自然学習・体験施設	236万人 2%
	文化・歴史	神社・仏閣・博物館・美術館・動植物園	3,311 26
	産業観光	観光農林業・観光漁業・観光牧場・潮干狩り・産業観光施設	981 8
遊ぶ(楽しむ・リフレッシュ)	スポーツ・レクリエーション	ゴルフ場・海水浴場・ハイキング道・公園・レジャーランド・テーマパーク	5,330 42
	温泉	温泉・その他の入浴施設	428 3
	買物	ショッピング店(街)・朝市・市場	748 6
触れ合う(交流)	行事・祭り	行事・祭・郷土芸能・地域風俗・花見	668 5
	イベント	博覧会・コンベンション・花火・イベント(産業祭)	1,095 8
計			12,797 100

(注) 千葉県観光課資料による。

とくに、南房総エリアは千葉県における観光地域として知られており、近年の交通網の整備によって観光地へのアクセスが一層充実してきた。このことは、日帰り観光客の増加につながるとはいえ、

観光シーズンにおける混雑や地域経済への波及効果の停滞をもたらし、さらには地域理解を得どころか、うわべだけの観光になりかねないのである。

日帰り客を1泊客へ、1泊客を連泊客へと誘導して滞在客の増加による地域経済効果を高めるとともに、観光客の健康づくりや地域住民との触れ合いを深め、さらに学校教育の一環として野外体験学習を推進する滞在メニューが求められている。地域特有の観光資源を見出し、それらをルート化して地域ガイドが案内することで滞在型観光地への流れを醸成することが、観光振興にとって重要な観点であり、そのための人材育成が求められている。

4 文化的景観の意義と全国的動向

(1) 文化的景観の意義

文化的景観は、2004年における文化庁文化財保護法の一部改正施行を経て、2005年4月1日に重要文化的景観制定の制度を発足させた際に生まれた用語である。文化庁によれば、文化的景観とは「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの（文化財保護法第2条第1項第5号）」に該当する文化財である。

ここに、文化的景観は文化財としての価値が特に高いものについては、地域の主体性のもとに都道府県または市町村の申し出を経て「重要文化的景観」として選定できるようになったのである。選定の基準は、具体的には以下の通りである。

○文化財保護法第2条第1項第5号の該当するもの

- ①水田・畑地などの農耕に関する景観地、②茅野・牧野などの採草・放牧に関する景観地、③用材林・防災林などの森林の利用に関する景観地、④養殖いかだ・海苔ひびなどの漁労に関する景観地、⑤ため池・水路・港などの水の利用に関する景観地、⑥鉱山・採石場・工場群などの採掘・製造に関する景観地、⑦道・広場などの流通・往来に関する景観地、⑧垣根・屋敷森などの居住に関する景観地
- 前項各号に掲げるものが複合した景観地のうち、我が国民の基盤的な生活又は生業の特色を示すもので典型的なもの又は独特のもの

選定された重要文化的景観は、現状の変更や保存に影響を及ぼす場合は、文化財保護法のもとに文化庁長官への届けが必要となるが、通常の生産活動に関する行為や非常災害時の応急措置などはこの限りではないとされている。この制度では、文化的景観の保存活用のために行なわれる様々な事業、例えば調査事業や保存計画策定事業、整備事業、普及・啓発事業に対しては、国からその経費の一部の補助が行なわれるので、行政当局の積極的な対応が望まれる。

以上の選定基準に合致したものとして、まず以下の重要文化的景観が選定された。

2006年1月の指定第1号は滋賀県近江八幡市「近江八幡の水郷」であり、以後指定時期順に2008年8月1日までに、岩手県一関市「一関本寺の農村景観」、北海道沙流郡平取町「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」、愛媛県宇和島市「遊子水荷浦の段畑」、岩手県遠野市「遠野

荒川高原牧場」、滋賀県高島市「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」、大分県日田市「小鹿田焼の里」、佐賀県唐津市「蕨野の棚田」、熊本県上益城郡山都町「通潤用水と白糸台地の棚田景観」が指定された。その後、2009年2月12日に京都府宇治市「宇治の文化的景観」や四国の「四万十川流域の文化的景観」5件（高知県高岡郡津野町：源流域の山村、橿原町：上流域の山村と棚田、中土佐町：上流域の農山村と流通・往来、四万十町：中流域の農山村と流通・往来、四万十市：下流域の生業と流通・往来）が選定され、広がりを見せている。

このように、文化的景観は地域の風土・生活・生業を保全するとともに、その観光的活用を考えることによって、次世代に日本の地域文化を継承することの大切さを伝える意義を有するといえよう。

（2）文化的景観の全国的動向

文化庁の文化的景観のみならず、文化的景観に類する景観の保全については、各省庁や民間機関でも全国レベルで選定が進められており、さらに県や市町村でも関心が高まっている。

文化庁は文化財保護法の一部改正のほぼ2年前の2003年6月12日付けで、「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究（報告）」を発表した。そこには、フィリピンのルソン島にあるコルディレラの棚田景観が世界遺産条例における文化的景観として登録されたのを契機に、農林水産業に関する文化的景観が脚光を浴びるようになったことが記されている。日本では、棚田100選などの地道な活動を経て、1999年に長野県更埴市の姥捨（田毎の月）、2001年に石川県輪島市の白米の千枚田が名勝に指定されたのである。その背景には、地域の景観に視点をあててきた地理学・歴史学や農業土木の研究成果が大きな役割を演じたといわれる。

この調査研究報告書では、2次調査の対象とした文化的景観は全国で502件であり、そのうち180件を重要地域としている。重要地域選択の基準は以下のようである。

- I 農山漁村地域に固有の伝統的産業及び生活に密接に関わり、独特の土地利用の典型的な形態を顕著に示すもの
- II 農山漁村地域の歴史及び文化と密接に関わり、固有の風土的特色を顕著に示すもの
- III 農林水産業の伝統的産業及び生活を示す単独又は一群の文化財の周辺に展開し、それらと不可分の一体的価値を構成するもの
- IV I～IIIが複合することにより、地域的特色を顕著に示すもの

なお、重要地域の選択に当たっては、上記の基準以外に次の4つの視点に留意したという。

- ①「美しさ」及び「やすらぎ」など、その地域の原風景としての「文化的景観」が人間の感性に与える好ましい影響などについても考慮すること
- ②絶滅危惧種などの貴重な生物及び多様な動植物の生息地伴っている場合が多く、それが生態系において果たす役割についても考慮すること
- ③特定の地域的特性を反映しつつ各地に共通して展開するもの及び社会的状況の変化に伴って消滅の危機に瀕しているものが多いことから、代表的なもの及び希少価値のあるものに配慮すること
- ④農山漁村地域に固有の伝統的産業及び生活と密接に関わるものであることから、地域住民及び地方

公共団体が一丸となってそれらの保存・活用に積極的に取り組んでいるなど、景観の維持に将来的な展望が持てること

こうして、文化的景観の重要地域選択の基準となる分類によって、180件の重要地域が示された。農林水産業に関する文化的景観であるので、前記した選択基準Ⅰに相当する件数が116件、64.4%を占める。その内訳は、水田景観と畑地景観が多くてそれぞれ35件、19.4%、32件、17.8%を占め、両者で37.2%である。次いで集落に関連する景観が13件、7.2%、草地景観と漁場・漁港・海浜景観が各10件、各5.6%、河川・湖沼景観が9件、5%、森林景観7件、3.9%と続いている。選択基準Ⅱは少なくとも4件、2.2%に過ぎず、Ⅲは8件、4.4%と少ないが、Ⅳは52件、28.9%で著しく多い。ここに、複数の景観が有機的に一体化している景観が多く選択されていることが分かるが、これこそ地域の複合景観として観光的活用にとってもより価値が増すものと考えられる。

なお、全国180件の文化的景観の重要地域のうち、千葉県で選択されているのは次の8件である。
千葉市：千葉の谷津田、鴨川市：大山千枚田、長南町：坂本のはす田、富津市：富津の海苔養殖、我孫子市：手賀沼の漁業、佐原市：佐原市の水郷の水田と集落、富津市：鋸山採石場跡、富浦町：富浦町の真木の生垣

さらに、重要地域には選択されていないが、502件の中に選ばれたものは次の9件である。
富里市：中沢四ツ塚・四ツ又弁天、八街市：八街市南部の防風保安林と落花ぼっち、千倉町：南房総の花畑、山武町：山武杉のある風景、木更津市：金田のす立て、野田市：関宿、栄町：布鎌の水塚のある集落、丸山町：丸山町の槇木の生垣、市原市：西広堰

次に、2008年11月に民間機関によって選定された「にほんの里100選」も、文化的景観の保全と同じ視点からの事業である。朝日新聞社と森林文化協会が、それぞれ創刊130周年、創立30周年の記念事業として、「すこやかで美しい里」の再確認をするため、全国から候補地を募集したところ、個人や企業から4,474件、2,000ヵ所以上の応募があったという。文化庁の文化的景観との重なりは少なく、遠野市の上附馬牛・大出の牧場、所沢市・三芳町の三富新田の集落、砺波市・砺南市の散居村、宇和島市遊子水荷浦の段畑の4地域に過ぎない。ここではよりローカルな里山景観に視点が当てられているのである。千葉県では、印西市結縁寺の水田・池沼、南房総市下平久里下の里山・水田・畑が選定されている。

以上のように、多方面から文化的景観に関する選定事業が活発化し、フォーラムや講演会などが各地で開催されるにいたり、これらの景観を観光振興に活かすことが重要となっている。各機関によって選定地域が異なることも多いが、いずれも貴重な景観であることには変わりはないのであり、全国的な景観保全の推進が期待される。

5 千葉県の文化的景観と郷土景観の選定

(1) 千葉県の文化的景観の選定

前述のように、2006年1月に文化庁の重要文化的景観第1号「近江八幡の水郷」が選定されて以

後、全国的に文化的景観への関心が高まってきた。千葉県でも、教育委員会文化財課が中心となって「ちば文化的景観」の選定作業に入った。2008年6月には、千葉県教育委員会ホームページ上で「ちば遺産100選」「ちば文化的景観」選定の概要を明らかにした。なお、千葉県商工労働部観光課と千葉県観光協会は、2006年度にすでに「ちば眺望100景」（実際は94カ所）を選定し、2007年1月にはそのガイドブックを発行した。ここで選ばれた眺望は、眺望地点を含めた一帯の景観構成が文化的景観として価値が高い場合も多いのである。

“一県民が選ぶ「ちば遺産100選」「ちば文化的景観」選定”として公開にされたホームページには、次のような記述がある。

“千葉県の自然環境や歴史・文化を反映する「ちば遺産100選」「ちば文化的景観」を、県民の投票をもとに選定します。「ちば遺産」は、伝統文化（民俗文化財、無形文化財）、文化遺産（有形文化財・史跡・名勝）、自然遺産（天然記念物）の各分野から選定します。「ちば文化的景観」は、気候風土や地形を利用して、千葉県の人々が作ってきた歴史・文化、生活・生業を具体的に示すものです。「ちば遺産100選」「ちば文化的景観」は、千葉県の自然と人間生活とのかかわりを表し、その原風景ともいえるものです。このため、現在、千葉県が進めている「生物多様性ちば県戦略」や「良好な景観形成の推進」とも密接に関連しています。この投票を通じて、県民の皆様は地域の自然・歴史・文化を再認識していただくとともに、生物多様性を始めとした環境保全や良好な景観形成、さらに街づくりや観光資源としての活用にもつなげたいと考えております。”

選定候補は、千葉県の担当部局が設定し、さらに県民の提示した候補の取り入れる方向を示した。その選定作業は以下のようである。

“選定候補リストは、地域の文化財保護・活用団体からの推薦や意見を取り入れ、市町村とも連携して作成しました。県内の多様な自然・歴史文化・景観を反映した地域ゾーンを設定し、各ゾーン別に候補の写真と説明文をご覧になりながら投票できる、投票フォームを作りました。各候補の得票数をもとに、県文化財保護審議会の助言と県庁各課の意見を受けて、「ちば遺産100選」「ちば文化的景観」を選定します。千葉県内には、長い歴史と豊かな自然を反映して、選定候補以外にも多くの優れた文化的景観があると思われます。そこで、候補以外にも魅力的な文化的景観があれば、投票フォーム内の記入欄にお書きいただき、是非お知らせ下さい。皆様のご投票・ご意見の内容によって、「ちば文化的景観」を選定していきたいと思えます。ちば県民日より6月号で「ちば文化的景観10地区」選定としましたが、10地区に限らず広く選定いたします。”なお、県当局は次のような8つの選定ゾーンを設定し、各ゾーンごとに投票は1人1回としている。

こうして、2008年11月20日に「ちば文化的景観」が発表された。投票の際に提示した52地区の候補はすべて選定することにし、ちば文化的景観への県民の提案や意見110件の中から、千葉県文化財保護審議会の意見を入れて8地区を加えて合計60地区の文化的景観を決定したのである。「ちば遺産100選」を含む投票数は1万8,105票に及んだという。

「ちば文化的景観60」は表3のとおりである。

表 3 「ちば文化的景観 60」(2008 年)

地域	市町村	名 称
干潟の海岸と谷津田景観ゾーン	千葉・市川・船橋・習志野・八千代・浦安市	1 千葉市幕張新都心の都市景観と稲毛・検見川周辺の旧海岸景観 2 千葉市大草の谷津田景観、四街道市山梨・中台の谷津田景観 3 千葉市の御茶屋御殿跡と御成街道の景観 4 市川市中山法華経寺の門前町景観 5 船橋の漁港景観
利根川・江戸川と水運のゾーン	松戸・野田・柏・流山・我孫子・鎌ヶ谷市	⑥松戸市矢切の渡しの景観 7 野田市利根川の川回しと水辺景観 8 野田市関宿城の城下町景観 9 野田市の醤油醸造景観 10 柏市「布施弁天」と「あけぼの山農業公園」の利根川流域景観 11 流山市江戸川流域のクネ（高垣）の屋敷景観 12 我孫子市手賀沼の漁業景観
印旛沼の恵みとニュータウンのゾーン	成田・佐倉・四街道・八街・印西・白井・富里市・酒々井・栄町・印旛・本埜村	13 成田山新勝寺の門前町景観 14 印旛沼とその周辺の里山景観（成田市・佐倉市・印旛村） 15 佐倉城の城下町景観 16 八街市の屋敷林と畑地景観 17 白井市平塚地区の水田と集落景観 18 白井市今井の水塚のある集落景観 19 富里市中沢四ツ塚・四ツ又弁天の水田景観 20 本佐倉城跡と成田街道酒々井宿の町並み景観 21 本埜村押付・栄町布鎌の水塚のある集落景観
香取の海と水郷、香取神宮・社叢林のゾーン	香取市、神崎・東庄町	22 香取市佐原地区伝統的建造物群と小野川の運河景観 23 香取市佐原の水郷の水田と集落景観 24 香取市香取神宮の社叢景観 25 香取市小野川上流域の谷津田景観
九十九里浜(海岸平野)と地曳漁業・水産業ゾーン	銚子・東金・旭・匝瑳・山武市・多古・大網白里・九十九里・芝山・横芝光・白子町	26 銚子市の醤油醸造景観 27 銚子の漁港景観 28 東金の溜め池（八鶴湖・雄蛇ヶ池）と九十九里平野の水田景観 29 旭市椿海と干潟八万石の水田と農村景観 30 山武市の山武杉のある景観 31 多古町栗山川流域の谷津景観 32 九十九里町・白子町の納屋集落と地曳網漁

風光明媚な海山と古寺、城ゾーン	茂原・勝浦・いすみ市、一宮・睦沢・長柄・長南・大多喜・御宿町、長生村	<p>33 茂原の六斎市の景観</p> <p>34 勝浦市鷗原・興津・浜行川等の漁村景観</p> <p>35 勝浦漁港と朝市景観</p> <p>36 いすみ市夷隅川中流の山城と水田景観</p> <p>㉞ いすみ市の槇の生垣集落の景観</p> <p>38 長南町坂本の蓮田景観</p> <p>39 一宮町東浪見坂寺・睦沢町妙楽寺・長南町笠森寺と自然林の山寺景観</p> <p>40 大多喜城の城下町</p> <p>41 御宿町御宿の海岸景観と月の沙漠・ドンロドリゴ上陸地</p>
黒潮と山の恵みのゾーン	館山・鴨川・南房総市、鋸南町	<p>42 館山市八幡・南房総市富浦・丸山の槇の生垣の集落景観</p> <p>43 館山市布良・鴨川市太海・南房総市白浜等の漁村集落景観</p> <p>44 館山市小網寺・鴨川市清澄寺・大山寺、南房総市小松寺・石堂寺の霊場景観</p> <p>45 鴨川市曾呂・大山周辺の棚田と集落景観</p> <p>46 鴨川市天面の漁村集落景観</p> <p>㉟ 鴨川市小湊・天津・浜荻の漁村集落景観</p> <p>㊱ 鴨川市鯛ノ浦と誕生寺の門前町景観</p> <p>49 南房総市地震段丘とお花畑景観</p> <p>㊲ 南房総市和田浦の鯨の食文化の景観</p> <p>51 鋸南町鋸山採石場跡と日本寺の石造物群</p>
東京湾を望む上総丘陵のゾーン	木更津・君津・富津・袖ヶ浦・市原市	<p>㊳ 東京湾岸の京葉工業地帯の景観</p> <p>53 東京湾盤洲干潟の潮干狩りの景観</p> <p>54 木更津市金田の簀立景観</p> <p>㊴ 君津市久留里市場の町並みと酒と水の景観</p> <p>56 富津の漁港景観</p> <p>57 富津の海苔養殖景観</p> <p>58 袖ヶ浦市山谷周辺の鎌倉道の景観</p> <p>59 市原市の西広堰の景観</p> <p>㊵ 市原市の谷津田と農村景観</p>

(注) 千葉県資料による。数字の○印は県民の提案により追加された景観である。

(2) 千葉県の郷土景観の意義と選定

1) 郷土景観の意義

これまでに述べてきた文化的景観は、地理学でいう地理景観のうち自然景観を除いた人文・社会・文化的な景観を指すものと考えられる。地理学では第2次世界大戦前から景観論の議論が展開し、人間の手が加えられていない自然景観と自然景観に生活様式が反映された可視的な統一的風景としての文化景観とを分けてきた。

ここでは、地域の景観的特色を活かした観光の発展を図る上から、地域を特色づける自然環境・歴史環境や地域を支える人々の生業を知ることができる景観(景色)、すなわち自然景観や文化景観を含めた「ふるさとの原風景」「ふるさとの景観」を「郷土景観」として把握し、まとめることにした。地域住民の郷土への愛着があつてこそ、景観保全への意識も高まり、それが観光振興へと展開するからである。

千葉県は東京の東に隣接する人口615万人(2008年10月現在)の県で、全国6位にランクされている。全国28位という5,157km²の県土には、低地・台地・丘陵・山地が展開していて、北部の県境には利根川や江戸川が流れ、海岸では穏やかな東京湾岸や内房・外房の岩石海岸、特に外房は美しい海食崖の景観が続き、さらに九十九里では長大な砂浜海岸が伸びている。こうした千葉県の多様な地形環境が、郷土景観に変化を与えているのである。とくに、下総台地は広くて主に農業生産地域となっている。東京からほぼ30km圏には都市地域が広がり、それ以遠には湾岸では工業地域が形成され、内陸では広く農業地域が展開している。2006年度の農業生産額では全国3位、野菜生産額では2位を誇っているし、海面漁業漁獲量では全国6位である。首都圏の一角を形成していながら、第1次産業を中心として多様な生産活動や生活様式が地域を特色づけている。しかし、これらの産業活動が経済環境の変化に左右される中で次第に消滅する景観もみられるので、その保全が早急に図られる必要がある。そのためにも郷土景観を選定し、その観光的活用を図ることが望まれるのである。

2) 郷土景観100の選定

千葉県の「郷土景観100」を選定する際に、千葉県当局の選定した「ちば文化的景観」の60の景観を取り込みながらその一部を取捨選択して再編し、次いで「ちば遺産100選」のうち景観として把握できるものの一部を考慮して100選に加えた。さらに、千葉県の全56市町村観光課へアンケート用紙を配布して回答を得た推薦する郷土景観と研究担当者の推薦する景観を考慮して、「郷土景観100」を選んだ。千葉県の全56市町村への郷土景観の推薦候補アンケートの結果、回答があつたのは半数の市町村に過ぎなかつたのは残念であつた。市町村の行政当局、特に観光担当部署においては、一部の市町村を除いて文化的景観や郷土景観を地域の観光振興に活かすことへの理解がまだ十分ではないことを示している。なお、ちば文化的景観60のうち、一般的に景観の意義や位置などが分かりにくい景観、近隣地域と同じ内容のもの、1景観の中に多くの地域が含まれているものなどは除いた。

このようにして選定した郷土景観100は、表4のようである。地域別・景観特性別にまとめると、東京湾岸地域25、東葛飾地域11、下総・利根地域19、九十九里地域11、南房総地域34となり、とくに南房総地域が3分の1を占め、景観特性別には、歴史31、自然28、農村21、漁村8、町並み5、

施設 4、工業 2、山村で、歴史・自然・農村が 80%を占めた（表 5）。

なお、歴史と町並みなどは複合的景観として把握されるものが多いが、表 5 では歴史としてまとめたので、歴史景観が 31 で最も多くなっている。選定に際しての基準として採用した内訳は、複数推薦で千葉県選定の「ちば文化的景観」が 50、「ちば遺産 100 選」が 21、市町村推薦が 55、本研究担当者推薦が 11 であった。

表 4 千葉県の郷土景観 100 (2009 年)

地 域	景観特性	選定基準		
		○ちば文化的景観	△ちば遺産 100 選	□市町村推薦 ☑研究者推薦
『東京湾岸地域』				
浦安市				
1 旧漁師町の景観	町並み			☑
2 東京ディズニーリゾート	施設			☑
市川市				
3 中山法華経寺境内・門前町景観	歴史・町並み	○	△	□
4 三番瀬（干潟）	自然・漁業		△	□
5 クロマツの町並み	町並み			☑
6 梨街道	農村			☑
習志野市				
7 谷津干潟	自然		△	□
千葉市				
8 幕張新都心の景観	町並み	○		
9 谷津田の景観（林地間の細長い田）	農村	○		
10 御茶屋御殿跡と御成街道	歴史	○		
11 落花生ぼっち景観（乾燥風景）	農村			☑
12 加曾利貝塚	歴史		△	
13 検見川の大賀蓮	自然		△	
市原市				
14 京葉工業地域の景観	工業	○		□
15 養老溪谷温泉郷	自然			□
16 大福山自然林・梅ヶ瀬溪谷	自然		△	□
17 養老川西広堰の景観	農村	○		

18 上総国分寺・尼寺 袖ヶ浦市	歴史	△
19 東京湾アクアラインの眺望 木更津市	施設	□
20 小櫃川河口干潟（盤洲・潮干狩り） 君津市	自然	○ □
21 久留里城址	歴史	○ □
22 三石山自然林 富津市	自然	△
23 富津の海苔養殖景観	漁村	○
24 富津岬	自然	☑
25 鹿野山・マザー牧場	自然・施設	☑
『東葛飾地域』		
野田市		
26 関宿城・城下町景観	歴史	○
27 醤油醸造景観 流山市	工業	○ △
28 利根運河	歴史	△ □
29 江戸川流域の高垣（クネ）屋敷景観 松戸市	農村	○
30 矢切の渡しの景観	自然	○
31 本土寺境内（桜・アジサイ・紅葉） 鎌ヶ谷市	歴史	☑
32 下総小金中野牧の捕込土手跡 柏市	歴史	△ □
33 あげぼの山農業公園 我孫子市	農村・施設	○
34 手賀沼の張り網漁と水辺景観	農漁村	○ □
35 古利根沼 白井市	自然	□
36 水塚(盛土)の集落景観	農村	○
『下総・利根地域』		
佐倉市		
37 佐倉城下町	歴史・町並み	○

酒々井町		
38 本佐倉城跡・酒々井宿の景観	歴史・町並み	○ △
印旛村		
39 印旛沼と里山景観	自然・農村	○
本埜村		
40 水塚(盛土)の集落景観	農村	○
栄町		
41 水塚(盛土)の集落景観	農村	○
42 岩屋古墳・龍角寺古墳群・ 房総風土記の丘・房総のむら	歴史	△ ☑
成田市		
43 成田山新勝寺・門前町景観	歴史・町並み	○ △
八街市		
44 落花生ぼっち景観(乾燥風景)	農村	□
45 屋敷林と畑地景観	農村	○
芝山町		
46 芝山仁王尊・古墳群と埴輪	歴史	△
香取市		
47 与田浦・加藤洲十二橋の水郷景観	農村	○ □
48 佐原の歴史的町並み	歴史・町並み	○ □
49 香取神宮の社叢	歴史	○ □
50 府馬の大クスと展望公園	自然・農村	□
銚子市		
51 銚子電鉄線	施設	□
52 犬吠埼灯台と周辺	自然・施設	□
53 銚子漁港	漁業	○ □
54 銚子大橋・利根川河口堰	施設	□
55 屏風ヶ浦	自然	△ □
『九十九里地域』		
旭市		
56 刑部岬	自然	□
57 干潟八万石の水田景観	歴史・農村	○
匝瑳市		
58 飯高壇林跡(飯高寺)	歴史	△

山武市			
59 山武杉の景観	山村	○	□
東金市			
60 雄蛇ヶ池・八鶴湖（溜池）	歴史・農村	○	□
九十九里町			
61 九十九里浜海岸	自然		□
62 魚干物乾燥風景	漁村		☑
63 納屋集落（近世期漁師小屋）の景観	歴史	○	
茂原市			
64 六斎市（定期市）	歴史	○	□
長南町			
65 笠森寺の山寺景観と自然林	歴史・自然	○	△
長生村			
66 青海苔養殖場と乾燥風景	漁村		□
『南房総地域』			
いすみ市			
67 梨園	農村		☑
68 太東岬	自然		△
69 大原椿の里（生垣）	町並み	○	□
70 大原八幡神社朝市	歴史		□
71 万木城址	歴史・農村	○	
大多喜町			
72 大多喜城本丸跡と町並み	歴史・町並み	○	△ □
73 いすみ鉄道線	農村		□
74 麻綿原高原（アジサイ園）	自然		□
75 レンゲの里	農村		□
御宿町			
76 御宿海岸とドンロドリゴ上陸地	自然・歴史	○	
勝浦市			
77 勝浦朝市	歴史	○	□
78 勝浦漁港	漁業	○	□
79 鷯原理想郷・尾名浦・海中公園	自然・漁村	○	□
鴨川市			
80 大山千枚田・大山寺	農村・歴史	○	□

81 水田家茅葺民家と農村景観	農村		<input type="checkbox"/>
82 仁右衛門島	自然・歴史		<input type="checkbox"/>
83 清澄寺・旭が森	歴史・自然	○	<input type="checkbox"/>
84 誕生寺門前町景観	歴史・町並み	○	<input type="checkbox"/>
85 鯛の浦	自然・歴史	○	<input type="checkbox"/>
86 天面漁村のひじき狩り	漁業	○	<input type="checkbox"/>
87 太海漁村のハバノリ乾燥風景	漁業	○	<input type="checkbox"/>
88 嶺岡牧の遺跡	歴史		△
南房総市			
89 露地の花畑	農村		<input type="checkbox"/>
90 鯨解体場（和田浦鯨の文化景観）	漁業	○	<input type="checkbox"/>
91 野島崎の景観（花畑・海女小屋）	自然・農漁村	○	<input type="checkbox"/>
92 枇杷の栽培景観・枇杷倶楽部	農村・施設		<input type="checkbox"/>
93 大房岬	自然		<input type="checkbox"/>
94 岩井海岸	自然		<input type="checkbox"/>
館山市			
95 平砂浦海岸	自然		<input type="checkbox"/>
96 崖の観音（大福寺）	歴史		<input type="checkbox"/>
97 館山城址	歴史		△ <input type="checkbox"/>
98 槇の生垣景観	町並み	○	
鋸南町			
99 鋸山・日本寺	自然・歴史	○	
100 スイセンの里	農村		<input checked="" type="checkbox"/>

(注)「千葉県の郷土景観選定とその観光的活用プロジェクト」研究チーム選定。

表 5 郷土景観の地域別・景観特性格別分布（2009年）

地域	歴史	自然	農村	漁村	町並み	施設	工業	山村	計
東京湾岸	5	9	4	1	3	2	1		25
東葛飾	4	2	4				1		11
下総・利根	7	4	5	1		2			19
九十九里	6	2		2				1	11
南房総	9	11	8	4	2				34
計	31	28	21	8	5	4	2	1	100

(注)山村作成。主な景観特性を集計した。

6 千葉県の郷土景観の訪問度と評価

(1) 郷土景観のアンケート調査

千葉県の郷土景観 100 について、千葉県民を中心に東京都民、神奈川・埼玉県民などを対象にアンケート調査を実施した。南関東の都県に在住の城西国際大学観光学部教員とプロジェクト参加学生の家族やその近隣の知人などを調査対象とし、以下の要領で調査票を配布・回収した。

- ①本人と家族 1 名（高校卒業以上）の計 2 名に配布して回収する。
- ②居住地周辺で知り合いの 4 家族の各 2 名、計 8 名に配布して回収する。

アンケート調査票には、回答者の属性を記入してもらった後に、郷土景観 100 のそれぞれについて、①すでに行った、② 1 是非行きたい、③ 2 機会があれば行きたい、④ 3 行く気はないの 4 項目に○印をつけてもらった。郷土景観の調査であるので、本来は景観ごとに写真をつけるべきであろうが、諸般の事情で割愛した。そのために、たとえば水塚(盛土をして洪水などを防ぐ)景観といっても、回答者には分かりにくいことは予想されたが、回答者の判断に任せた。

回答数は 204 であり、回答者の属性は表 6 のようであった。回答者の男女差は大きくはなく、年齢は 20 代～60 代までは年代ごとの回答数に大きな差はない。職業では給与所得者が 43% で多く、以下、主婦が 23% で続いている。居住地では千葉県が 78% を占め、東京都が 15% に過ぎないので、県外客の動向をみるにはさらなるサンプル数が必要となろうが、今回はこの資料で分析した。

表 6 アンケート回答者の属性 (2009 年) 単位：人

性別	年齢	職業	居住地
男性 83	10 代 3	給与 88	千葉県 160
女性 118	20 41	自営 13	東京都 30
不明 3	30 48	主婦 46	神奈川県 4
	40 25	無職 9	埼玉県 9
	50 35	学生 25	不明 1
	60 38	その他 14	
	70 14		
計 204	計 204	計 204	計 204

(注)山村作成。

(2) 郷土景観の訪問度

郷土景観 100 について、それぞれの景観地をすでに訪問した比率を算出した。204 回答者の各景観訪問率が 35% 以上を占めたものは 29 ヲ所あり、その性別・年齢別訪問率をまとめたのが表 7 である。

表 7 回答者の訪問率の高い郷土景観とその性別・年齢別構成（2009年）

郷土景観			性別		年齢別		
順位	景観名	訪問率	男性	女性	10~29	30~49	50以上
1	デイズニーリゾート	90%	86%	94%	100%	95%	80%
2	九十九里浜海岸	75	80	70	52	84	78
2	アクアライン	75	75	74	77	70	77
4	鹿野山・マザー牧場	74	72	75	61	78	77
5	成田山新勝寺	71	70	72	34	70	90
6	幕張新都心	69	75	66	55	79	68
7	犬吠埼	66	72	61	23	74	80
8	鯛の浦	60	55	64	34	53	79
9	養老溪谷	57	55	59	34	67	61
10	誕生寺	54	52	56	43	42	69
11	銚子漁港	53	59	50	23	59	64
12	鋸山・日本寺	53	48	56	34	42	70
13	鶯原・海中公園	49	52	46	25	49	58
14	富津岬	48	53	47	25	55	54
15	南房総露地花畑	47	39	52	20	47	60
15	勝浦漁港	47	46	49	30	48	54
17	銚子大橋	46	55	40	20	44	60
18	清澄寺	45	47	45	32	36	59
19	仁右衛門島	44	43	46	43	34	51
19	大多喜城跡と町並み	44	46	42	23	38	59
19	九十九里魚干場	44	51	41	36	44	47
22	矢切の渡し	43	39	46	14	36	64
23	香取神宮社叢	43	43	43	7	40	66
24	銚子電鉄線	42	47	39	16	42	54
25	岩井海岸	40	40	42	23	38	51
26	野島崎	40	39	41	18	37	53
27	佐倉城下町	38	39	38	14	40	52
28	笠森寺山寺	36	30	40	11	34	49
29	佐原町並み	35	36	36	9	37	47

(注) 山村作成。訪問率 35%以上の郷土景観。

表7をみると、いずれもよく知られた景観が上位にランクされており、特に訪問率の高い景観は東京ディズニーリゾートの90%を最高にして、九十九里浜・東京湾アクアライン・鹿野山マザー牧場・成田山新勝寺などが70%を超えて続いている。千葉県を象徴する自然景観の九十九里浜海岸や成田山新勝寺の歴史と町並みが一体化した門前町景観が、男女ともに高い比率を示している。新勝寺については、10~20代の若年層が34%と低率であり、反対に東京ディズニーリゾートは100%である。千葉県民の回答者が多いサンプルを反映して、高齢化するほど各景観の訪問率がおおむね高くなっていることが指摘される。とくに、表7の訪問率が40%台の下位の景観では、50代以上の比率が50%を超えているが、10~20代では経験不足で10~20%程度にとどまっている景観も多い。

一方、訪問率が10%未満の景観も19ヵ所あり、比率が低い順に示すと次のようである。

白井市水塚・本埜村水塚・鎌ヶ谷市小金中野牧・香取市府馬大クス・匝瑳市飯高壇林・栄町水塚・流山市江戸川流域のクネ（高垣）・旭市干潟百万石・市川市クロマツの町並み・我孫子市古利根沼・九十九里町納屋集落・鴨川市天津ヒジキと太海ハバナリ・旭市刑部岬・八街市屋敷森・いすみ市椿の里と朝市・千葉市谷津田と御成街道である。これらの景観は、いずれも文化的景観として貴重なものであるが、いまだ観光客にとっても、受入観光地側にとっても観光対象として十分に認識されていない段階にある。それゆえ、いち早くこうした郷土景観をこそ地域の個性的な観光資源として活かしていく必要がある。

ここで、郷土景観別に回答者の訪問率を10~20代、30~40代、50代以上に分けて地図化し、次いで、千葉県北部居住者・南部居住者・県外居住者別に分けて示したのが図1である。千葉県北部と南部の居住地区分は、東はいすみ市、西は富津市を結ぶ線を基準にして設定した。

さらに、回答者の居住地別景観訪問率を階級区分してまとめたのが表8である。

郷土景観100の分布は、千葉県北部に59ヵ所、南部に41ヵ所となっている。アンケート回答者全体の訪問率をみると、北部の景観では20%未満が比較的多く、南部では訪問率区分がほぼ平均化している。これを北部居住者と南部居住者とに分けてみると、北部居住者は北部の訪問率が50%以上を示す景観が多く、反対に南部居住者は10%未満が3分の1を占めていて対照的である。県外居住者ではその傾向が一層強い。一方、南部の景観訪問率は、もちろん南部居住者が高率となっているが、北部居住者も大差はなく南部の景観を多く訪れている。県外居住者では、北部と南部の景観ともに10%未満の訪問率の景観が著しく多い。こうした傾向は、今後の観光客誘致策を検討する際に参考となろう。

次に、回答者の居住地別に訪問率の上位の景観20位を示したのが表9である。

図1 観光客の郷土景観への訪問率(2008年)

(注) アンケート調査により山村作成。

表 8 回答者の居住地別郷土景観訪問率の構成 (2009年)

景観所在地	訪問率区分	全体	北部居住者	南部居住者	県外居住者
北 部	50%以上	7	15	4	2
	40~50	6	7	2	2
	30~40	8	4	5	2
	20~30	8	11	3	5
	10~20	15	12	11	9
	10%未満	15	10	34	39
	計	59	59	59	59
南 部	50%以上	5	11	15	
	40~50	8	6	4	1
	30~40	8	9	6	
	20~30	7	3	8	
	10~20	9	8	3	12
	10%未満	4	4	5	28
	計	41	41	41	41

(注)山村作成。

表 9 回答者の居住地別訪問率上位の景観 (2009年)

千葉県北部居住者		千葉県南部居住者		千葉県外居住者	
1 ディズニーリゾート	96%	1 アクアライン	87%	1 ディズニーリゾート	86%
2 九十九里浜海岸	91	2 誕生寺	79	2 アクアライン	51
3 鹿野山・マザー牧場	87	3 仁右衛門島	76	3 鹿野山・マザー牧場	47
4 幕張新都心	85	3 大山千枚田	76	3 九十九里浜海岸	47
5 成田山新勝寺	84	5 ディズニーリゾート	74	5 幕張新都心	44
5 犬吠埼	84	6 館山城址	71	6 成田山新勝寺	40
7 アクアライン	80	7 清澄寺	68	7 犬吠埼	35
8 養老溪谷	75	7 鯛の浦	68	8 矢切の渡し	28
9 鯛の浦	74	9 鹿野山・マザー牧場	66	9 佐原町並み	23
10 銚子漁港	71	9 大房岬	66	9 銚子電鉄線	23
11 勝浦漁港	65	11 成田山新勝寺	61	9 銚子漁港	23
12 鋸山・日本寺	63	11 野島崎	61	12 佐倉城下町	21
13 富津岬	62	11 平砂浦	61	13 香取神宮	19
13 鶴原・海中公園	62	11 鋸山・日本寺	61	13 銚子大橋	19
15 誕生寺	61	11 岩井海岸	61	15 木更津潮干狩	16
16 銚子大橋	60	16 九十九里浜海岸	55	15 野田醤油醸造	16
17 九十九里魚干場	57	17 養老溪谷	53	15 鯛の浦	16
17 南房総露地花畑	57	17 富浦枇杷山	53	15 南房総露地花畑	16
17 銚子電鉄線	57	19 鶴原・海中公園	50	15 鋸山・日本寺	16
20 京葉工業地域	56	20 幕張新都心	47	20 京葉工業地域	14

(注)山村作成。

千葉県北部居住者は、千葉県内各地の観光地化した主な景観を訪れている。ディズニーリゾートは96%でトップであるが、これに匹敵する位置に九十九里浜や鹿野山・マザー牧場などが続き、幕張新都心・成田山新勝寺・犬吠埼が85%のほぼ同率で上位を占めているのである。銚子地域や勝浦・鴨川・南房総などの外房と内房、成田・佐原と東京湾岸に訪問率40%以上の景観地が展開しており、全県的な観光が行われていることが伺える。これに対して、千葉県南部居住者は北部地域の景観としてはアクアライン・ディズニーリゾート・成田山新勝寺などがある程度で、幕張新都心は20位である。残りの17景観中では九十九里浜海岸を除いてすべて南房総地域に集中している。東京都を中心とした千葉県外居住者では、訪問率は下がるものの全県的に主な景観を訪ねていることが明らかである。しかし、郷土景観100のうち80カ所は10%未満の訪問であり、大都市の新たな観光マーケットを掘り起こすために、今後のさらなる誘致活動が望まれる。

(3) 郷土景観の評価

郷土景観100の各景観についての志向性を、①すでに行った、②是非行きたい、③機会があれば行きたい、④行く気はないに分けて回答を求め、①を3点、②を2点、③を1点、④を0点として評価した。すでに行ったところは、自らの志向のもとに訪れた景観であり、高く評価した。評価点として、平均値が高い順にA：2.0以上、B：1.5～2.0、C：1.0～1.5、D：1.0未満とした。表10は地域ごとに評価別景観の数を整理したものである。

表10 千葉県の郷土景観100の地域別評価結果(2009年)

地域	A	B	C	D	計
東京湾岸	5	2	14	4	25
東葛飾		2	4	5	11
下総・利根	3	6	6	4	19
九十九里	1	1	2	7	11
南房総	2	15	11	6	34
計	11	26	37	26	100

(注)山村作成。

Aランクの評価を得た景観は11、以下、Bは26、Cは37、Dは26であった。地域別にまとめると、B以上の37景観は以下のようなものである。

東京湾岸 A：東京ディズニーリゾート、幕張新都心、養老溪谷温泉郷、東京湾アクアライン、鹿野山・マザー牧場

B：小櫃川干潟(潮干狩り)、富津岬

東葛飾 B：野田醬油醸造景観、矢切の渡し

下総・利根 A：成田山新勝寺門前町、犬吠埼、銚子漁港

B: 佐倉城下町、佐原の歴史的町並み、香取神宮社叢、銚子電鉄線、銚子大橋・利根河口堰、屏風ヶ浦

九十九里 A: 九十九里浜海岸

B: 魚干物乾燥風景

南房総 A: 鯛の浦、鋸山・日本寺

B: 大多喜城跡・町並み、いすみ鉄道線、勝浦朝市、勝浦漁港、鵜原理想郷・海中公園、大山千枚田・大山寺、仁右衛門島、清澄寺・旭が森、誕生寺門前町、南房総露地花畑、野島崎（海女小屋）、岩井海岸、崖の観音・大福寺、館山城跡、スイセンの里

一方、評価の低かった D の 26 景観は次のようである。

東京湾岸 D: クロマツの町並み、谷津田の景観、御茶屋御殿跡と御成街道、検見川の大賀蓮

東葛飾 D: 江戸川流域の高垣景観、下総小金牧跡、あけぼの山農業公園、古利根沼、水塚（盛土）の集落景観

下総・利根 D: 水塚（盛土）の集落景観（本埜村）、水塚（盛土）の集落景観（栄村）、屋敷林と畑地景観、府馬大クス展望公園

九十九里 D: 刑部岬、干潟百万石の水田景観、飯高壇林跡、山武杉景観、納屋集落景観、六斎市、青海苔養殖・乾燥景観

D: 大原椿生垣、万木城跡、天面のヒジキ狩り、太海のハバナリ乾燥風景、嶺岡牧遺跡、槇の生垣景観

さらに、回答者の郷土景観に対する志向性として、今後、①是非行きたい、②機会があれば行きたい、③行く気はないに分けて、その比率が高い順に景観をまとめると、次のようである。（ ）内の％は 204 回答者に対する割合である。

是非行きたい：鯨解体場、本土寺境内、関宿城下町、スイセンの里、大福山・梅ヶ瀬溪谷、大原八幡（28～15％）朝市、銚子電鉄線、勝浦朝市、崖の観音、野田醤油醸造景観、養老溪谷温泉郷、小櫃川干潟（潮干狩り）、江戸川流域の高垣景観、佐倉城下町、麻綿原高原

機会があれば行きたい：

（52～40％） クロマツの町並み、旧漁師町の景観、府馬大クス展望景観、大福山・梅ヶ瀬溪谷、中山法華経寺境内・門前町、上総国分寺・尼寺、三番瀬、本佐倉城跡・酒々井宿、御茶屋御殿跡・御成街道、天面のヒジキ狩り、養老川西広堰景観、万木城跡、大原椿の里、梨街道、谷津田景観（千葉市）、刑部岬、江戸川流域の高垣、飯高壇林跡、槇の生垣、青海苔養殖・乾燥景観、芝山仁王尊、与田浦・十二橋、検見川の大賀蓮、本土寺境内、あけぼの山農業公園、水塚（盛土）の集落景観（本埜村）、大原八幡朝市、大房岬、下総小金中野牧跡、屋敷林と畑地景観（八街市）、梨園（いすみ市）、太海ハバナリ乾燥風景

行く気はない：水塚（盛土）の集落景観（白井市）、水塚（盛土）の集落景観（栄町）、下総小金中野（49～39％）牧跡、水塚（盛土）の集落景観（本埜村）、飯高壇林跡、山武杉景観、古利根沼、干潟八万石の水田景観、六斎市、養老川西広堰景観、あけぼの山農業公園、京葉工業地域の景観

この結果を見ると、機会があれば行きたい景観の中に、先述した D 評価の景観がかなり入っており、これらを地道に紹介することによって、その意義が理解されることにもなる。

7 千葉県郷土景観の現状と観光的活用

ここでは、郷土景観 100 に選定したものの中から、千葉県南房総地域の勝浦市・鴨川市・南房総市の郷土景観を選び、その現状と観光的活用をまとめた。さらに、他の地域にとっても参考となるように、千葉市を出発地として上総丘陵エリア・外房エリア・内房エリアの郷土景観を訪ねる観光ルートを設定し、観光的活用の具体的あり方に言及した。

(1) 勝浦市

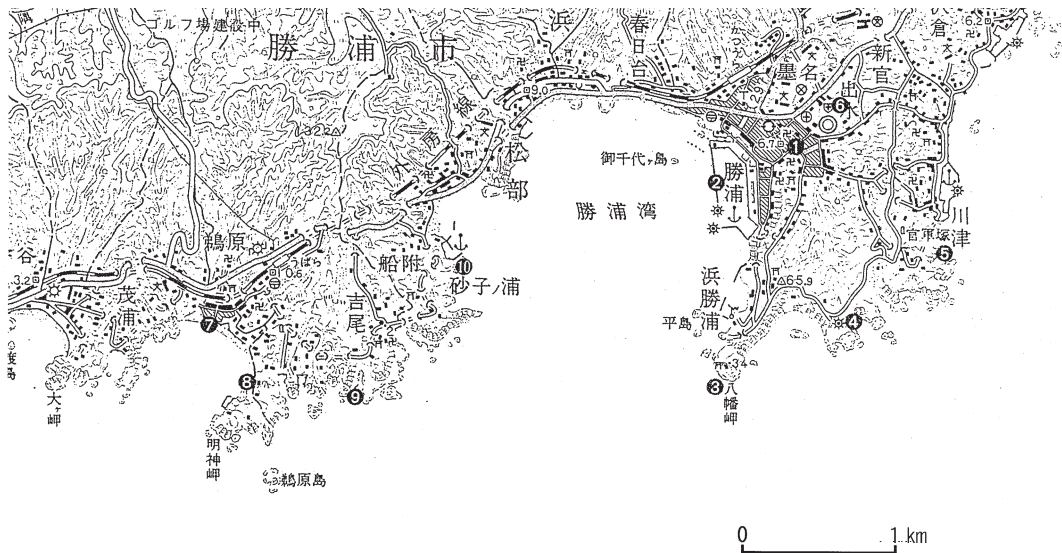


図2 勝浦市中心部と周辺地域

(注) 5 万分の 1 地形図。

勝浦市は背後を山地で遮られ、外房の豊かな海を前面に控えているので、漁業を中心に発達してきた(図2)。近世期以後、紀州の漁民が進出して漁業の基盤を築いたが、勝浦の地名も和歌山県那智勝浦からの漁民の移住に由来するという。勝浦の漁業生産は、銚子に次いで千葉県で2位の地位にある。カツオやマグロの水揚げが多いが、近年ではカツオで知られるようになった。それは、6月初旬のカツオ祭りなどを立ち上げて、消費者向けのPRを実施してきたからであろう。さらに、新しいひな祭りのイベント導入も観光振興にとって大きな役割を演じている。勝浦市の統計によれば、海水浴客は2004年の約50万人に比べて2008年では27万人へと半減したが、イベント関係の客はそれぞれ29万人、51万人を示していて倍増した。

勝浦の郷土景観を中心とした観光ポイントは、日本3大朝市(輪島・高山・勝浦)といわれる伝統

的な朝市である。また、勝浦付近から鴨川へかけては外房のリアス式の岩石海岸が連なり、景勝地が続いている。今後は、こうした歴史景観や自然景観を踏まえた観光振興策を打ち出す必要がある。

①勝浦朝市・ビッグひな祭りと周辺地域

朝市はローカルな人々の暖かさに包まれていて、勝浦を代表する名所として多くの観光客にも親しまれてきた(図 2①)。1590(天正 18)年に領主の植村泰忠が始めたといい、明治時代以降、毎日開かれるようになって海や山の幸が取引されている。水曜日を除き、月の前半と後半に分けて下本町と仲本町の2カ所で開催され、100を超える露天商が野菜や鮮魚をはじめ各種の品物を販売している。下本町道りは毎月1日から15日まで、仲本町道りは毎月16日から月末まで開催されている(写真1)。朝市に近い海岸に勝浦漁港があり(②)、朝市の散策後に立ち寄るのも興味深い。



写真1 勝浦の朝市
(注) 山村撮影。以下の写真も同じ。

ビッグひな祭りは、2001年から始められた新しいイベントである。徳島県勝浦町が集めてきた雛人形の里親として勝浦市が7,000体を受け入れた経緯があり、年々その数が増えて、現在3万体制にもなるという。その展示法もユニークであり、遠見岬神社の60段の階段一面に並べられた1,200体の雛人形には驚かされる。市民会館や覚翁寺の山門前、道路の辻などにも雛人形が飾られていて圧巻である。この展示と案内には、観光協会員や100名もの市民ボランティアが総出で参加しており、観光客への対応も評価できる。

実際、このイベントが広まるとともに、旅館はロビーに雛人形を飾り、各民家でも竹筒に飾った人形を門構えに吊るしている光景を観察できる。このように、心のこもった祭りの雰囲気は溢れていて、心が和む。

勝浦市街地の南は半島となっており、16世紀中頃、その先端に真里谷武田氏が砦を築いたと推定され、後に里見方の正木氏が勝浦城を築城した八幡岬がある(③)。その東の海食崖には、戊辰戦争で熊本藩の官軍が榎本武揚鎮圧のための援軍として函館に向っていた際、暴風雨で130名が遭難したところであり、官軍塚の記念碑が立っている(⑤)。八幡岬ともども太平洋を展望することができる景勝地である。

②鵜原理想郷・海中公園と周辺地域



写真2 鵜原の海食崖と海中公園

勝浦市鵜原地区は南房総国定公園随一のすぐれた海岸景観である(写真2)。

太平洋の荒波に侵食された典型的なリアス海岸をなし、深い入江を覆うように常緑の木々や海岸性の植物が紺碧の海に突き出た岬の先端まで茂っている。大正時代末に鉄道大臣秘書の後藤杉久がこの地を鵜原理想郷(⑧)と名づけ、風光明媚な景観が都会人の評価を得て、別荘地として利用されるようになった。多くの文人も訪れるようになり、そ

の名は広がった。岬の突端は第三紀層の砂岩や泥岩などが侵食された断崖絶壁であり、海の青と樹木の緑、そして断崖の黄褐色とがよく調和してすぐれた自然景観をなしている。小さな漁村から坂道に続く岬への遊歩道も整備されており、途中の樹木の名札は地元の小学生が植えたものである。

この海岸は、1974年に東日本で最初の海中公園に指定されたが、後に海中展望塔が設置され、千葉県立海の博物館も開館して、海の生態を学ぶ格好の地域ともなっている(9)。その東に隣接する吉尾集落は、外房の素朴な漁村景観を保っていて、訪問客は地域色溢れた旅情を味わうことができよう。さらに歩を進めれば、尾名浦のめがね岩に達する。このルートはメインの道路から外れているので、静かな環境下にあり、写真撮影のスポットとしても推奨できる。

鶴原の海岸は、岩石海岸に挟まれた入り江に砂浜が広がっており、南房総のすぐれた海水客場として多くの客が訪れる(7)。また、この鶴原砂浜海岸では、7月第4土曜日に伝統的な鶴原大名行列が催行され、海水浴客や観光客でにぎわう。この祭りは、八坂神社の例祭で神輿の渡御「お浜おり」とともに大勢の毛槍の奴が続く行列が珍しく、千葉県の無形民俗文化財にも指定されている。

(2) 鴨川市

古代に長狭国造が、中世には東条氏や里見氏の家臣正木氏が鴨川市域を支配した。近世初期に里見氏が安房から倉吉へ転封されて以後、幕府直轄の旗本知行地となり、1620(元和6)年に西郷氏が1万石に加増されて大名になり、東条藩が成立した。3代の寿員が1692(元禄5)年に移封されて以後、明治維新時に3万5千石の花房藩が立藩されるまで、幕府直轄地と旗本知行地が入り交ざって支配されてきた。

房総半島の南部を占め、外房線と内房線が交わる終着駅をもつ鴨川市は、これまで交通の便はよくはなかったが、それゆえに南房総の自然と生活が溶け合った景観がよく保たれている。市の北部には嶺岡山系と清澄山系が東西に走っていて房総特有の農山村景観を残しており、両山系の間を流れる加茂川が形成した長狭平野には、長狭米の銘柄で知られる穀倉地帯が広がっている。広い湾入の海岸が明るいイメージを構成し、冬の気候も温かくて江見地区の露地の花畑が旅情を誘う。

2005年には天津小湊町と合併して、鴨川シーワールドのテーマパークを核としつつも多様な新たな観光資源が加わり、地域社会を挙げてのさらなる観光の発展が期待される。鴨川の前原海水浴場・シーワールド・仁右衛門島・フラワーセンター、天津小湊の誕生寺・鯛の浦・清澄寺という従来型の観光資源や観光施設のみならず、大山千枚田に代表される農山村景観、太海・天津の漁村景観などを取り込んだ観光施策が、宿泊観光の振興にとって重要である。

①天津小湊地域



図3 天津小湊地域

(注) 5万分の1地形図。

1955年に天津町と小湊町が合併して天津小湊町が誕生したが、現在でも観光の中心は誕生寺の門前町として発展してきたのが小湊である(図3④)。日蓮宗の開祖である日蓮聖人は小湊片海の地で生まれ、12歳のときに清澄寺の仏門に入り、18歳で出家した。誕生にまつわっては、庭先から産湯に使う水が湧き出した誕生水、蓮華が咲いた浜辺の青蓮華ヶ淵、海面に鯛が集まってきた妙の浦が「三奇端」として伝えられている。また、妙の浦は日蓮聖人が父祖の供養で帰郷した際、海上でお題目を唱えたところ、多くの鯛が海の上に現れたお題目を食べたとの言い伝えがあり、以後その殺生が禁じられた。この地は、現在も鯛の浦として遊覧が可能であり、深海に生息する鯛の群が海面近くに集まってくる

日蓮宗の大本山である誕生寺は、日蓮聖人の弟子の日家上人が生誕地に建立し、後に15世紀末の明応地震と18世紀初頭の元禄地震の際に現在地へ移転したものである。山門・仁王門、そして見事な老松の枝をぬけて本堂へと続く境内は、落ち着いた雰囲気漂っている。しかし、誕生寺境内の調和の取れた伽藍に対して、門前の町並みは情緒がなく、土産店を集めた和風の売場が造られているにもかかわらずシャッターが下りた店が多い。鯛の浦遊覧船の発着する港や駐車場も未整備であり、門前町の景観を再生することが大きな課題であろう。幸い門前の宿泊施設は温泉浴場を有しているので、温泉浴を前面に出して通りに賑わいを復活することも検討材料であろう。

誕生寺の背後に展開する海岸は磯が続いており、大弁天島・小弁天島の景観を楽しみ、海食崖の地層も観察できる。その東には、親孝行娘おせんが強欲な父をいさめるために身を投げたという伝説に因む「おせんころがし」の断崖絶壁がある(⑤勝浦市に属す)。小湊地域では、先進的なグループである「鯛のまちボランティアガイド」が意欲的に活動しているので、行政や観光団体はこうしたガイド組織を支援して、観光活性化に取り組む必要がある。

天津地域の海岸では、春先に漁民がひじきを狩る光景がみられ、まさに郷土景観そのものである。エビ網を干した風景（写真 3）も、外房を特色づける郷土景観として活かすとよい。天津から北の山間地へたどれば清澄寺に出る（写真 4）。周囲を森林で覆われ、太平洋を遠望できる景勝の地にあり、江戸時代の建築である本堂は風格がある。境内の千年杉は国指定天然記念物である。その山内の標高 333.6m の旭の森は、富士山に次いで初日の出を拝めるといい、例年 2,000 人の参詣客が集まる。なお、清澄寺からハイキングコースをたどれば、約 1 時間でアジサイの群落が見事な麻綿原（大多喜町）へ出る。さらに徒歩 1 時間強で自然環境の真っ只中にある内浦山県民の森へ足を伸ばせば、自然を満喫できる。



写真 3 天津漁村のエビ網干し

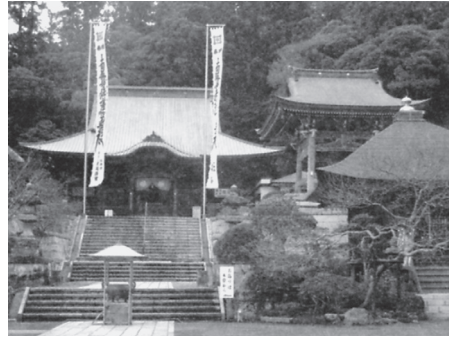


写真 4 清澄寺

②鴨川・太海地域と大山千枚田

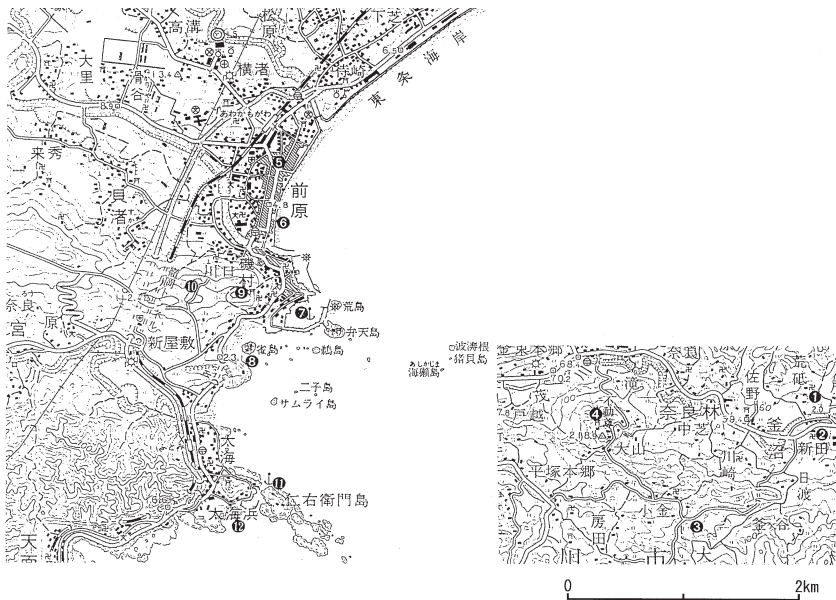


図 4 鴨川中心部・太海・大山千枚田
 (注) 5 万分の 1 地形図を縮小。

鴨川市の中心市街地は加茂川河口部に広がっており、これまで前原海岸（図 4⑥）の海水浴客をはじめ一般観光客を受け入れる宿泊施設が集まっていて、南房総の一大観光地域を形成してきた。しかし、10年前には約 25 万人いた海水浴客が、現在では約 15 万人へと大幅に減少している。もちろん、近年ではレジャー活動の多様化を反映して、海水浴への需要が低下していることも影響しているが、今日では鴨川における大規模宿泊施設や鴨川シーワールドなどが立地する北の東条海岸地域へと観光の中心が移っていることにも一因がある。東条海岸は遊泳禁止であるにもかかわらず、松の防風・防潮林が植林されていて環境的にもすぐれた地域となっている。サーフィン客は波が立つ東条海岸の一角を利用して多数集まっているが、観光消費面では大きな期待はできない。

前原海岸・東条海岸は、ともに長い砂浜が続いており、朝夕に潮風に当たりながらの砂上の散策をすれば、健康保持にとっても効果が期待できる。また、この地域の主な宿泊施設は共同で単純硫黄冷鉱泉の温泉を搬送して温泉浴場を保持しているので、海浜散策と温泉浴を組み合わせた滞在メニューを開発することである。前原海岸の南端にはリゾート法で整備された鴨川港があり、さらに南へたどると、川口の漁村へ出る。その先の標高 110m の魚見塚（⑨）へ登ると、地元の彫刻家・長谷川昂氏の高さ 6m ものブロンズ女神像「暁風」がある。眼下に鴨川の市街地と大きく弧を描いた湾入が展開し、南側には鴨川松島として知られる景勝地が眺められる。鴨川松島の景観は 1098（承徳 2）年と 1601（慶長 6）年の 2 度の津波で陸地が侵食され、もっとも大きな弁天島や景観の美しい雀島（⑧）など大小 7 つの島が点在することになったといわれる。

太海漁村では、1960 年代の高度経済成長期には 100 軒に近い多くの民宿がにぎわったが、今日では 10 数軒に過ぎなくなっている。小規模な漁港には磯根漁業のための小型漁船が並び、アワビ・サザエやイセエビを漁獲する。また、数トンの漁船でサバ・キンメダイ・カツオなどを漁獲する沿海漁業もみられるが、漁港近くでエビ網を干していたり、貝類の水揚げをしている光景や冬季の解禁日にハバノリを採取して乾燥している景観などは、静かな漁村のたたずまいとともに、太海の活かすべき観光資源でもある（写真 5）。

太海といえば、1935（昭和 10）年に千葉県の名勝第 1 号に選定された仁右衛門島がある（⑩）。その名のとおり、平野仁右衛門家がこの島を所有し、1 軒だけ居住している。仁右衛門は 1180（治承 4）年、源頼朝が小田原の石橋山合戦で破れ、安房へ逃れてきたときにこの島の洞穴にかくまって助けたので、後に頼朝からこの島を授かったとの伝説がある。1703（元禄 16）年の元禄大地震で家屋は流出し、その後高台へ新たに平屋の住居を構えたが、それが今日まで残されており、平野家の家族が住んでいる。住居の半分は観光客に開放されており、桑の天井板、南天の床縁、樹齢 600 年という蘇鉄、江戸城の石垣を模倣した石垣門構えなど、300 年もの歳月を感じる貴重な歴史景観である。

2007 年の新年に始まったちばデスティネーション・キャンペーン（ちば DC）では、城西国際大学観光学部の学生が太海地区のボランティアガイドを行った。翌年には、頼朝伝説にちなんで仁右衛門島で鎧冑姿の学生が観光客を迎え、日蓮聖人が朝日を拝んだ神楽岩、頼朝の隠れ穴、俳句や和歌の文学碑などの説明もした。二挺櫓の手漕ぎ舟で島へ渡るのも一興である（写真 6）。近くに、旧江見町が農業構造改善事業でつくった太海フラワー磯釣りセンターがあり（⑪）、温室での植物鑑賞や鯛釣りも

体験できる。

また、漁港の近くには、文化勲章受賞の安井曾太郎が昭和初期に転機となる「外房風景」を製作した江澤館が、和風旅館の外観を今に残っていて風情がある（写真7）。西の「波切」に東の「波太」とよばれるほどに、絵描きの町として特化していた太海漁村は、同じような環境下にある画家の町・三重県志摩市大王町波切との連携のもとに、かつてのように、絵描きの町として再興されることが望まれる。

なお、城西国際大学観光学部のキャンパスは太海漁村背後の高台にあり、傾斜は急であるが遊歩道が整備されており、6月にはアジサイが咲いていて散策に適している。大学の建物の屋上からの眺めは、前面の太平洋と背後の嶺岡山系の常緑樹林とが対照的で素晴らしく、「ちば眺望 100 景」にも選ばれた。大学では、一般客にも開放しているので、訪問するとよい。

鴨川市では、1987年の早い時期から東京都荒川区の小中高生を毎年招いて稲刈り・牛乳絞りを体験させてきた。その10年後に、農林水産省の農業構造改善事業である「リフレッシュビレッジ」事業を開始した。そこで具体的には、①大山千枚田の復元と活用、②総合交流ターミナル「みんなみの里」事業が展開されてきた。図4のように、上総丘陵嶺岡山系の山間傾斜地に、農林水産省選定の「棚田百選」に選ばれた大山千枚田がある（写真8㉓）。東京から最も近い棚田ということで、3ha、375枚の棚田のうち一部を棚田オーナー制度のもとに農業体験ができるようにした。1口3万円 で田植え・稲刈り・草取りなどを体験させ、秋には収穫した米がもらえることになる。大山千枚田は都会からの家族連れでにぎわうようになり、春や秋には棚田の夜祭りを催行して、幻想的なろうそくの明かりが棚田一面に広がる。

大山千枚田の景観は、規模は大きくはないが房総の山間地域の情緒が感じられる。天水を利用する伝統的農業形態を維持してきたので、日照が続くときには近くの大山不動尊で雨乞いの行事を行ってきた。こうした民俗的意義を意識しつつ地域を歩き、不動尊の山門をくぐると、江戸時代末建立の本堂に出る。波の伊八の彫った龍が、信者を迎えてくれる。鴨川の大山不動尊は、相模の大山寺と成田山新勝寺とともに関東三大不動尊ともいわれる。みんなみの里では、農産物直売のみならず地元住民参加のもとに菜花つみ・草木染・陶芸・酪農体験など多くの体験メニューが用意されている。さらに、近接地には近世中期に幕府が設置した馬の放牧地・嶺岡牧が、現在、千葉県酪農の里として残されているので、これらの多様な観光対象・観光活動を結びつけてガイドするとよい。



写真5 太海のハバノリ乾燥景観



写真6 仁右衛門島の渡船



写真 7 画家ゆかりの宿



写真 8 大山千枚田の景観

③曾呂・江見地域

嶺岡山系を流れる曾呂川の沿岸は地すべり地帯でもあり、緩斜面は小規模な棚田や畑地となっており、近年では蘇鉄の植栽が目立つ。この地に、かつて大蔵大臣であった水田三喜男氏の旧宅が残されている。現在、茅葺寄棟民家は修復され、管理人が常駐しているので民家の構造を見学することができる。曾呂地域に残る民話などを語る施設としての利用も考えられる。

曾呂川沿いに曾呂・たかつる・宮下温泉の 1 軒宿が点在している。曾呂温泉は明治期の開発で、千葉県でも古い温泉である。この地に僧侶が多かったのが地名の由来であるという。曾呂温泉は黒褐色の湯で泉質は含重曹硫黄泉、たかつる温泉は無色透明の重碳酸ソーダ・メタケイ酸の湯、宮下温泉は無色透明の含重曹塩化物泉である。南房総の典型的な農山村を散策しつつ、疲れを癒すために泉質の異なる温泉浴を楽しむことができる。

海岸に面した江見地区を結ぶ畑集落には、小規模ではあるが見事な棚田がある。地域住民が積極的にその保全と体験的利用を図っており、四季折々の花を植栽している。冬季のスイセンに始まり、菜の花・山百合・ヒマワリ・彼岸花・コスモスなどが水田と背後の山林に映える。江見地区は、かつては南房総の露地花の中心の一角をなしていた。今日では放棄された畑が多くなっているが、国道 128 号沿いの 1 花卉農家が、一面にキンセンカやストックなどが咲き乱れる観光露地花畑をつくり、花摘み客を迎えている。

(3) 南房総市

平成の大合併に伴い、2006 年 3 月 20 日に安房郡内の富山町・富浦町・白浜町・千倉町・丸山町・和田町・三芳村の 6 町 1 村が合併し、南房総市が誕生した。これらの町村は、それぞれに地域の特性を観光に活かしながら他の町村との差別化を図ってきた。しかし、今後はこの地域は安房国領内であったとの歴史的一体感を保持しつつ、合併によって生じた多様な観光資源や観光施設を有機的に結びつけることで、相乗効果を高める必要がある。

①和田地域と周辺

旧和田町の花園地区は南房総の花弁栽培の先進地として、その名が高い。冬季の温暖な気候条件を背景に、先覚者の間宮七郎平が大正時代末から花の栽培を本格的にはじめた。1923（大正 12）年に房

総西線の和田浦駅が開設されると、彼は生花組合を設立して共同出荷をするなど市場開拓を進めた。この地区は現在では花卉生産の中心となっている。ビニル栽培のハウスが立ち並んでいて花を買う客には対応しているが、景観的にすぐれているとはいえない。しかし、砂浜海岸はきれいで、海水浴場として高き評価される。背後の花嫁街道をたどり、健康づくりにも資するであろう。

一方、南へ進むと、和田漁港へ出る。ここは全国でも珍しい土鯨の解体作業がみられ、「鯨のたれ」が販売されている。その背後の真浦の天井畑は、暖地性を活かして斜面で早くから露地のキンセンカを植えてきた経緯があり、篠竹で防風垣を作り、天水を利用した露地花栽培景観は一見の価値がある。天井畑の高台への入り口には、出羽三山の信仰を示す石碑が立っており、古くから庶民の間で房総と出羽と交流があったことが理解できる。現在、南房総市や地域住民が一带となって、この露地花と鯨を結びつけた観光振興を検討しているが、ガイドによる詳しい説明がなければ、単なる写真撮影の場と化す恐れがある。

旧丸山町の山間地域では、708（和銅元）年に奈良の僧恵命・東照が草庵を建てたのが始まりで、726（神亀 3）年に僧行基が堂宇を建てたという房総最古の石堂寺がある。その後、851（仁寿元）年に天台宗の慈覚大師円仁が七堂伽藍を造営したといわれ、室町時代建立の本堂・薬師堂・多宝塔や本堂厨子などは、国の重要文化財に指定されている。江戸時代の波の伊八の「波雲に鶴」の彫刻もある。石堂寺への国道 410 号沿いや一帯の水田中には、白い風車が目につく。これらは昭和初期に水田に冠水した水を排水するために設置したもので、戦前の最盛期には 100 基もあったという。歴史的農業景観として価値が高いため、1980 年代に 34 基が再生されて観光景観としての役割を果たしている。その一方、自動車交通量の多い海岸線にそっては、1991 年にローズマリー公園がつけられ、シェイクスピアカントリーパークが併設された。

②白浜・千倉地域



図 5 白浜・千倉地域
(注)5 万分の 1 地形図。

南房総市の旧白浜町は、千葉県最南端の野島崎があることで知られ、背後の畑には露地の花畑が広がっていて、南房総国定公園の観光拠点性を有してきた。隣接する旧千倉町も同様であり、海と花を基本とする生活環境の中で、白浜に近い白間津の集落をはじめ、沿岸地域では磯根漁業・海女・露地花などに関する郷土景観が残されてきた。同じ外房海岸とはいえ、海水浴場としては勝浦・鴨川に中心があるものの、冬季は花畑を中心とし、夏季は磯の漁民の生活を映し出した農漁村景観が展開する千倉・白浜は、都会人の心をひきつける。

白浜の野島崎は、1703（元禄 16）年の元禄大地震で海底が隆起して、野島と陸地が繋がり、ここに陸繋島が誕生した（写真 9）。海岸沿いの宿泊施設も隆起した岩場の間にあり、地震の大きさを知ることができる。観光拠点であるので、ホテル・食堂・土産品店などが集中している。岩礁の上に 1869（明治 2）年完成の野島崎灯台がある。観音崎灯台に次ぐ日本で 2 番目の古い洋式灯台であり、展望台から太平洋を望む 360 度の一大パノラマを満喫できる。野島崎の一角には海洋美術館があり、万祝いや江戸時代の鯨絵巻、釣具などの美術品も展示されている。7 月下旬には、海女が松明を持って泳ぐユニークな海女祭りがあり、花火が打ち上げられる。

少し内陸に入った原田地区は花の栽培地域であり、道の駅「花の情報館」がある。単なる物産を販売する道の駅が多い中で、花についてより詳しく知ることができる貴重な施設である。背後の安房丘陵によって冬の季節風をさえぎり、温暖な気候条件に支えられてきたこの一帯は、1 月～3 月にかけて露地にキンセンカ・ストック・菜の花などが咲き乱れ、最近ではキンギョソウの生産が多い。もちろん、露地の花摘みも各地で体験できる。白浜の地には、中世の 1441（嘉吉元）年、里見義実が結城合戦に破れて白浜に上陸し、城山に白浜城を築いて安房国平定の基礎をなしたという歴史がある。近くに義実によって造営された曹洞宗杖珠院がある（⑤）。ここには、義実の木像や里見氏の墓がある。

千倉の白間津地区は露地花観光の中心地である（写真 10⑦）。かつて粗田といわれて米の収穫が少なく、稲の裏作に植えた露地花が現在では冬季に多くの観光客を集め、地域経済に活性化に大きく貢献している。休日には、観光バスを連ねての団体客やマイカー客が押しよせ、交通渋滞を引き起こすほどである。観光客が多くなると、郷土景観が破壊される傾向がある。すでに、花摘のはさみなどを置いておく新しい小屋が花畑のあちこちに乱立し始めている。絵になるような露地花畑の景観を保持しなければ、客の減少を招くことになるであろう。平磯地区では、千葉県水産試験場が磯浜でアワビの稚貝やヒラメの稚魚を養殖しており、体験学習の場として活用するとよい。



写真 9 白浜の野島崎



写真 10 千倉の白間津露地花畑

③富浦・三芳地域



図6 富浦地域

(注) 5万分の1地形図を縮小。

旧富浦町は房総半島南西部の内房に位置し、南部には大房岬が大きく突き出していて、南房総国立公園の集団施設地区となっている(図6⑩)。大房岬ビジターセンターやホテルもある。砂浜の湾入は明治中期頃から夏季臨海学校地となり、鉄道が開通した大正期以後は海水浴シーズンに貸家・貸間が発達した。これらの施設は高度経済成長期には民宿へ換わるものが多かったが、その民宿も今日では減少し、海水浴客もまた減っている。

こうした背景のもとに、旧富浦町は千葉県当局とともにいち早く農業と観光を結びつけたアグリツーリズムを推進し、1993年には総工費8億円で第3セクターの道の駅「枇杷倶楽部」を開設した(写真11⑨)。



写真11 富浦枇杷倶楽部と菜の花畑

冬季を中心に、菜の花・ポピーなどの花摘み客を誘致し、イチゴ狩りを加えたり、特産ビワの加工品を販売した。初夏には特産のビワを販売・直売し、JRもビワ狩りツアーを催行するようになった。房州うちわの体験コーナーもあり、2階は地元住民の各種展示会場として利用され、観光客に開放されている。

富浦地区の観光振興は、町役場が中心になって企業的

経営を推進し、バイパスの完成もあって南房総地域への観光客の多くが枇杷倶楽部に立ち寄ることになり、1998年には年間約60万人の利用があり、9億6,000万円の売上を記録した。こうした前向きな姿勢と実績が評価され、2000年には第1回道の駅グランプリに輝いたのである。

富浦には、NPO 法人富浦エコミューゼ研究会があり、エコミュージアムという地域博物館構想を展開してきた。富浦地域に関わる諸現象を現地に訪ねて観察し、参加者に地域理解を深めてもらおうという「ウォッチング富浦」の活動は、まさに郷土景観を活かした観光振興に資することになる。2001年以来、毎月土曜日に1回実施されてきたが、2008年度までに2,220名の参加があった（表11）。地域住民や近隣地域・千葉県内各地からの参加者があり、リピータ客も多い。

表11 ウォッチング富浦の参加人数（2001～2008年）

年	参加人数	年	参加人数
2001	58	2005	308
2002	286	2006	396
2003	379	2007	236
2004	320	2008	237

（注）とみうら元気クラブ資料。

2009年度は、最初が4月11日（土）の「200回記念：緑の探検・大房探検」であり、以下、7月「新しい道シリーズ：南無谷から花倶楽部まで」、10月「街中歩きシリーズ：多田良地区・薫森の昔話から」、2月「青岳尼シリーズ：丸山・石堂寺」などユニークな地域散歩が予定されている。

そこで、一般的にも以下のような内容をガイドが案内すると、興味が湧くであろう。

富浦には岡本城跡がある**①**。ここは、7代里見義弘が1571（元亀2）年に岡本氏の砦跡を修復し、1590（天正18）年に館山城が完成するまで里見氏の居城であった。近くにはビワの産地が広がっており、風を防ぐためにビワの周りをマテバシイの樹林で囲っている。海岸では日蓮聖人ゆかりの袈裟懸けの松**②**や岩礁地帯で地形や海の生態調査によい法華崎遊歩道**③**があり、5月ころに南無谷海岸**⑤**に出るとハマヒルガオの群落がきれいな花を咲かせている光景に出会う。さらに、農漁業景観を付け加えて徒歩で1日かけ、この地域を巡るコースは次のようである。

富浦での日帰り散策コース例

JR 内房線富浦駅－（徒歩20分）－里見公園（岡本城址）－（20分）－袈裟がけ松の碑－（10分）－法華崎遊歩道－（15分）－妙福寺－（15分）－南無谷海岸ハマヒルガオ群落－（40分）－長泉寺－（15分）－光巖寺－（10分）－青木カーネーション団地－（10分）－道の駅・枇杷倶楽部－（25分）－漁港・タイ養殖場－（20分）－大房岬ビジターセンター－（40分）－

JR 富浦駅

1日の時間が取れない場合は、富浦駅から北部方面と南部の大房岬方面に分けて、各半日コースとすればよい。国道127号には、路線バスが1時間に2本ほど運行しているので、時間が合えば利用で

きる。さらに、富浦は「山の飯田、海の富浦」というほどの人形劇でも著名であるので、定期的な公演が望まれる。

富浦の東の内陸部に位置するのが旧三芳村である。この地域の大半は標高 100~200mの丘陵に展開し、南部は平久里川の沖積地が広がる。古代安房国の国府があったとされ、その位置は府中付近と推定されている。従来から稲や野菜の有機栽培地域として知られ、観光とは無縁であったが、1991年から農村空間整備事業の補助を得て、地域住民の参加によるグリーンツーリズムを導入した。都市と農村との交流を推進する「土のめぐみ館」が誕生し、特産の牛乳を活かした「みるく工房」で生産するソフトクリームが好評となった。その後、農村での滞在客を増やすために、農家7戸の共同で農業体験をする貸し別送形式のファームイン2棟の経営がはじまった。その他、花摘園やメロン・イチゴ・ミカンなどの観光農園は拡大し、体験農園も増えている。千葉県でミカン狩りができるのは、三芳が中心をなす。素朴な農山村景観に囲まれた「土のめぐみ館」は、現在「鄙の里」として充実し、発展している。

8 南房総地域の郷土景観をめぐる観光ルート

南房総地域の市町は、勝浦・いすみ市と大多喜・御宿町は上総国に属し、それ以外は安房国の領域にあって行政的にも観光的にもまとまっている。この地域には多様な観光資源が存在しており、内房と外房の海岸が個性のある自然景観を作り出し、温暖な気候に影響されて醸成されてきた伝統的な農山漁村の景観が各地にみられる。ニューツーリズムの振興策として、これらのすぐれた自然・歴史・文化・社会の郷土景観を観光に活かすことが急務である。ここでは、南房総地域を滞在型観光地域として持続的に発展させる方策として、千葉市を出発地とした広域的な観光コースを①上総丘陵エリア、②外房エリア、③内房エリアに分けて例示する。

(1) 上総丘陵エリア

上総丘陵エリアでは、農山村景観をはじめ、大多喜の史跡と養老溪谷・温泉郷をメインにしたコースが設定できる。外房線の大原駅を起点とする「いすみ鉄道」沿線めぐり、大多喜の史跡と山間の景観を加えて養老溪谷の温泉地に宿泊する。逆コースの市原市五井から小湊鉄道で入ることも選択できる。以下、自家用車であれ電車利用であれ、ゆとりを持って郷土景観を訪ねることが望まれる。

- 1日目：JR 千葉駅－JR 外房線大原駅－椿生垣の里－いすみ鉄道大原駅－国吉駅－万木城址－いすみ環境と文化のさと－波の伊八ゆかりの行元寺－国吉駅－大多喜駅－大多喜城址（総南博物館）－大多喜城下町の歴史的町並み－大多喜駅－小湊鉄道上総中野経由－養老溪谷駅（養老温泉宿泊）
- 2日目：養老溪谷散策（粟又の滝・梅ヶ瀬溪谷）と温泉浴を楽しむ。さらに1泊して温泉保養をすることもよい。小湊鉄道養老溪谷駅－海士有木駅－上総国分尼寺跡－海士有木駅－JR 五井駅－JR 千葉駅

JR 外房線の電車を利用すると、変化する車窓の景観を楽しめる。このコースでは、千葉を出て菅田から大網に至る間は、台地上に多様な作物を植えている近郊畑作農業の景観を観察できる。落花生

も植えられていて、秋には豆ポッチが並ぶ。大網を過ぎると九十九里平野の水田が展開する。上総一宮からは台地を走り、梨の果樹園が広がる。森に囲まれた立派な民家がみられる。

大原からは、いすみ鉄道の菜の花号が走っており、春には沿線各地に菜の花が咲き、農村景観を彩る。夷隅川中流の水田地帯から上総丘陵の大多喜へ出、さらに小湊鉄道が養老川流域を走っていて、農山村の景観を満喫できる。東京湾岸の五井は京葉工業地域の中核をなし、近代的工場景観や都市化地域の実情を知りうる。

(2) 外房エリア

外房エリアは、千葉県を代表する海食崖が続く外房の海岸美と点在する素朴な漁村景観を観察し、歴史的由緒のある観光地をめぐり、さらに棚田などの農山村景観を訪ねるコースである。とくに、勝浦市の伝統的な朝市や鵜原を中心とした海岸、天津小湊の日蓮聖人ゆかりの誕生寺・鯛の浦・清澄寺、鴨川市の大山千枚田や源頼朝に縁があるという太海の仁右衛門島、和田浦から白浜・館山にいたる海岸沿いの露地の花畑や素朴な漁村景観など、多彩な自然景観・歴史景観・農漁村景観が展開している。これらの中から目的によって訪問先を選ぶ。逆コースも可能である。花畑の訪問は冬季(1~3月)に限られる。

1 日目：JR 千葉駅—JR 外房線御宿駅—歴史民俗資料館—御宿海岸（砂浜海岸・月の沙漠記念像・記念館）—メキシコ記念公園（日西墨三国交通発祥記念碑）—JR 御宿駅—JR 勝浦駅—朝市・勝浦漁港—JR 勝浦駅—JR 鵜原駅（鵜原理想郷・海中公園・海の博物館）—JR 安房小湊駅—誕生寺・鯛の浦・大弁天・小弁天—小湊温泉宿泊（または安房鴨川まで行き、鴨川温泉宿泊）

2 日目：JR 安房小湊駅（またはバス）—JR 安房鴨川駅—（バス・みんなみの里下車）—みんなみの里（各種農牧業体験）—（バス・釜沼バス停下車）—大山千枚田—JR 安房鴨川駅—（バス・鴨川松島下車）—鴨川松島—（バス・太海下車）—太海・仁右衛門島と漁村—太海江澤館絵画鑑賞—太海フラワーセンター（太海温泉宿泊）

3 日目：JR 太海駅—JR 和田浦駅—花園花畑・真浦露地花天井畑・鯨解体作業など—JR 和田浦駅—JR 千倉駅—（バス・白間津下車）—白間津露地花畑—（バス・野島崎下車）—野島崎灯台—（バス・JR 館山駅下車）—JR 館山駅（または高速バス）—JR 千葉駅

花の時期以外では時間がとれるので、千倉にある料理の神様で包丁式が行われる高家（たかべ）神社や千葉県水産試験場、白浜の明治期建設の石積みのがね橋、館山市の青木繁ゆかりの布良漁村や平砂浦の自然景観を味わうコースを入れるとよい。

電車利用の場合、外房線の勝浦を過ぎると車窓に太平洋の海岸が現れる。山側にはマテバシイを中心とした常緑樹の森が広がっており、6月初旬頃には黄緑色の新しい葉が山を覆っていて見事である。

(3) 内房エリア

内房エリアでは、波静かな海岸の景観を楽しみつつ、館山では復元された里見氏の館山城址やユニークな崖の観音を訪ね、富浦の自然と歴史の散歩、富山の里見発見伝にちなむ史跡、鋸南町の日本寺と

鋸山の一大観光ポイントを組み合わせるとよい。季節によっては、館山のイチゴ狩り（1～4月）・三芳のミカン狩り（10月下旬～12月）・富浦のビワ狩り（6月）や南無谷のハマヒルガオ（5月）・鋸南のスイセン鑑賞（1月）なども加えることができる。

1日目：JR 千葉駅－JR 浜金谷－ロープウェイ・鋸山山頂駅－鋸山散策－日本寺－JR 浜金谷－JR 富浦－枇杷倶楽部－大房岬－三芳鄙の里－JR 富浦－JR 那古－崖の観音－JR 那古－JR 館山（宿泊）

2日目：JR 館山－（バス・安房博物館－館山城址－洲崎灯台）－JR 館山駅－JR 千葉駅

2日目は洲崎から外房の平砂浦・白浜を経由して、館山に戻るコースを追加することもできる。

JR 内房線の沿線は、君津を過ぎて富津岬の付け根付近になると、砂地の畑地が広がっている。この富津岬から南部の洲崎までを内房という。浦賀水道に面する上総湊・竹岡などの漁港を眺めつつ、鋸山の麓の浜金谷駅に着く。浜金谷からは保田・岩井・富浦・北条などの湾入と岬とが連続し、電車も海岸に添って走る。館山から洲崎まではバスになるが、同様に海岸の景観を車窓から楽しめる。

9 むすび

千葉県において、地域の個性を反映した各地の郷土景観は、今後とも観光資源性・観光市場性の両面から大きな意義を有しており、その観光的活用が求められている。その際、近年の交通網の整備によって観光地へのアクセスが一層充実してきたことは、日帰り観光客の増加につながるとはいえ、それは観光シーズンにおける混雑や地域経済への波及効果の停滞をもたらし、さらには地域理解を得るどころか、うわべだけの観光になりかねないのである。

日帰り客を1泊客へ、1泊客を連泊客へと誘導し、滞在客の増加による地域経済効果を高めるだけでなく、観光客の健康づくりや観光客と地域住民との触れ合いを深め、さらには学校教育の充実を図るために野外体験学習を推進するといった滞在メニューを考案することが重要である。

都市観光地域でもある東京湾岸地域や河川流域の低地や台地が広がる下総・利根地域に比べて、南房総地域は房総丘陵が連なっており、海岸地域の冬季の温暖性をもたらす。そこで、外房では露地の観光花摘み園が各地に展開し、観光シーズンが夏から冬へと変化した。また、海岸では磯浜と入り江の砂浜とが交互に続いていて変化に富み、伝統的な農林漁業の景観が残されている地域も多い。非日常性を求める観光客にとって、四季折々に変化する魅力的な地域特有の観光資源が求められているのである。

南房総地域に限らず、全県的にこうした地域特有の観光資源を見出し、それらをルート化して地域ガイドが案内することで観光客との触れ合いが生まれ、滞在型観光地への流れを醸成することが観光振興にとって重要な観点である。

その意味で、近年の千葉県における温泉開発は大きな意義を有する。着地型観光の観光圏形成に際して、温泉地の存在は宿泊滞在地として大きく機能するのであり、地形療法や気候療法を取り入れた展開も期待される。一方、都市と農漁村との交流、自然体験、小中学生を中心にした体験学習の場としての郷土景観の持つ地域資源潜在力は大きい。今こそ、地域住民を巻き込んだ滞在型観光地域形成

に尽力する人材の育成が強く求められているといえよう。

郷土景観 100 の選定地域にとって、郷土景観の観光的活用を図る際に、次の諸点に留意する必要がある。

- ① 徒歩を基本とする郷土景観地域のウォッチング散歩を導入する。
- ② 縮尺の正確な地図を作成するとともに、観光ポイントの解説書を作成する。
- ③ 地域づくりを踏まえた郷土景観のガイドシステムを確立する。
- ④ 各年齢層・季節・曜日などに配慮した受け入れ態勢を整備する。
- ⑤ 教育観光の観点から、小中学生の体験学習による景観保全・環境保全・歴史文化の意識を醸成する。

以上のような観点を基本姿勢として、観光客を受け入れる地域の側では、四季折々の景観を保全し、それを紹介・案内して訪問者に地域理解を深めてもらい、さらに滞在してもらうような方策を考えることである。そこで、観光の対象となる郷土景観周辺の既存宿泊施設と連携していくことが不可欠であろう。

千葉市郊外大草地区の谷津田の景観は、下総台地を刻む都川によって形成された低地に水田が開かれたものである。NPO 法人は市当局の支援を得て、台地斜面には樹木が繁り、地主の管理が行き届かなくなっていて荒れている箇所を手助けしてきれいにし、市民が自然に触れる場を提供し、地域住民・農林業者・学校関係者との連携を強めて多様な生物相を次代に継承する重要な環境保全を行っている。これは、まさに郷土景観を活かした教養観光の振興策でもある。また、6 月初旬に鋸山のロープウェイに乗ると、黄緑色のマテバシイの若葉が眼下に広がり、見事な自然景観を楽しめる。観光地の側では、こうした秋の紅葉にも匹敵する素晴らしい景観を紹介することに気づいていないのである。

千葉県の代表的作物として、落花生をあげる人は多い。しかし、農業生産として農民がどのように落花生を育て、収穫しているのかを知ることは少ない。農民の労働力が低下している中でも落花生が生産されているのは、他の作物に比べて手間が少なくすむからである。その結果、秋の収穫期には、落花生を自然乾燥するために積み上げられた豆ぼっちが並んでいて、八街市や千葉市などの一部の畑地の農業景観を特色づけている。その郷土景観を訪ねる訪問者に対して、現地で落花生を試食してもらい、販売することも検討できよう。しかし、最近のように青いビニルシートをかぶせていては、郷土景観の評価を下げることになるので留意すべきである（写真 12）。

本研究で選定した郷土景観 100 は、自然・歴史・文化・社会・生活など多様な内容をもっている。その多くは地域社会を挙げて保全していかなければ、景観が乱されて観光や野外教育の対象としての価値が低下し、消滅することになりかねない。

ここで提言したいことは、郷土景観として意義のある景観は、末永く存続していかなければならないということである。たとえば、九十九里浜海岸では、かつてイワシ漁の揚繰網漁船が浜に引き上げられて並んでいた（写真 13）。これは砂浜海岸のために、漁港がなかったときの光景であったが、船の出入りのたびに「おっぺし」と呼ばれた漁民が総出で漁船を押し出し、引き上げたのである。1969 年に漁民待望の掘り込み式の片貝漁港ができて、砂浜上に放置された古い漁船は焼き払われた。そこで、2〜3 隻の漁船を砂浜上に並べて、そのうち 1 隻は「おっぺし」の体験に使用し、ガイドがかつての九十九里のイワシ漁業の盛衰を解説することが望まれる。ふるさとの原風景を郷土景観として維持

し、さらに消滅したものはその復元を図ることが、持続可能な観光地域社会の発展を支えることにもなると考える。



写真 12 八街の落花生乾燥景観



写真 13 九十九里浜の旧漁船置場景観

【参考文献】

千葉県観光物産課・千葉県観光公社・千葉県観光協会編（1985）：『千葉県ふるさとの散歩道』千葉県観光物産課・千葉県観光公社・千葉県観光協会、287頁。

千葉県国際文化課編（1989）：『房総の魅力500選 自然・歴史編』千葉県、198頁。

千葉県国際文化課編（1990）：『房総の魅力500選 施設・民俗・特産編』千葉県、199頁。

千葉県資料研究財団編（1999）：『千葉県の歴史 別編地誌2 地域誌』千葉県、995頁。

千葉地理学会編（2000）：『房総の地域ウォッチングーおもしろ半島千葉県の地理散歩』大明堂、114頁。

文化庁（2003）：『農林水産業に関する文化的景観の保護に関する調査研究（報告）』文化庁、93頁。

日本観光協会編（2004）：「特集・良好な景観形成を目指して」観光、451号、20～53頁。

山と溪谷社編（2004）：『新版 千葉さわやか散歩42コース』山と溪谷社、183頁。

国土交通省（2005）：『景観法の概要』国土交通省、49頁。

山村順次（2007）：「南房総における観光地域振興とそのあり方」城西国際大学紀要、第5巻第6号（観光学部）、41～58頁。

千葉県観光課・千葉県観光協会編（2007）：『ちば眺望100景』千葉県、112頁。

富浦エコミューゼ研究会（2008）：『南房総富浦総合ガイド資料集』富浦エコミューゼ研究会、70頁。

千葉県報道広報課編（2008）：『みんなでつくる観光県千葉』千葉県、82頁。

阿岸祐幸（2009）：『温泉と健康』岩波書店、203頁。

千葉県教育委員会編（2009）：『ふさの国の小さな旅』千葉県教育振興財団、175頁。

付記：

本稿は、平成20年度千葉県観光課助成による『大学と連携した魅力ある観光地づくり推進事業』研究報告書のうち、筆者が研究代表者をつとめた「千葉県の郷土景観選定とその観光的活用」の一部をまとめたものである。この調査に際して、千葉県北部地域の郷土景観の観光的活用を担当した城西国際大学前教授の溝尾良隆氏とプロジェクト参加学生諸氏に謝意を表したい。

Selection of Local Landscapes and their Application for Tourism in Chiba Prefecture

Junji Yamamura

Abstract

Chiba Prefecture is a popular tourism destination for city inhabitants due to its own nearby metropolitan areas around Chiba City and close proximity to eastern Tokyo. However, because of this quick and easy access, many travelers do not spend more than one night, opting instead to do a one-day trip and returning home the same day. The author would like to emphasize the importance of travelers spending more time visiting and enjoying the local landscapes as well as the necessity of increasing lodging visitors so that they can better experience the mind and body healing powers that Chiba has to offer.

To realize this, a regional promotion plan is necessary to make better use of the natural environment and local landscape. To do this, local citizens need to take the lead in implementing the plan providing tourists a unique and lodging-required tourism experience.

In this study, the author selected and evaluated 100 local landscape destinations in Chiba Prefecture, with particular focus on a tourism route in the Minami-Boso or Southern Boso Peninsula area that requires lodging.

The results of the study are as follows:

1. A great number of local landscape destinations with regard to nature, history, culture, life and industry in the Chiba Prefecture are not yet ready for the use of tourism.

Of the 100 local landscapes selected for the study, travelers chose places mostly in Minami-Boso, then around the Tokyo Bay and Shimousa-Tone areas. The least chosen areas were the Higashi-Katsushika and Kujukuri areas.

2. History, nature and farm villages made up 80% of the local landscape's primary features.
3. Of the 100 local landscapes evaluated, only 11% received a very high assessment or A Grade, while 26% received a B Grade. The remaining 63% received lower than a B Grade meaning that with regard to new tourism models, tourists know little or nothing about the area thus affecting how long they visit.
4. The following sample three-day route to local landscape destinations in the Minami-Boso area was suggested:

Day 1: JR Chiba Station to Onjuku Station

- Historical museum, Onjuku coastline, Mexico Park

Katsura Station

- Morning market, fishing ort, Ubara coastline

Ubara Station to Awa-Kominato Station

- Tanjoji Temple, Tainoura, rock coastline, lodging at Kominato spa

Day 2: Awa-Kominato to Awa-Kamogawa Station

Bus to:

- Minnami-no-Sato Farming Center, Oyama Terraced Rice Cultivation, Futomi Station
- Niemonjima, fishing village, traditional ryokan, Flower Center, lodging at Futomi spa

Day 3: Futomi Station to Wadaura Station

- Moura Flower Nursery,

Chikura Station

Bus to:

- Shiramazu Flower Garden, Nojimazaki Light House, marine errosian landscape

Tateyama Station to Chiba Station

